





VORTEX PROJECT

PARA RECOMENDACIONES, RESEÑAS Y DESCARGAS
VISITA MI PÁGINA WWW.PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT



TAMBIEN ME ENCUENTRAS EN:



/VORTEXCLADESCANDOR





伊藤潤二画集

異形世界

朝日新聞出版

富 江





VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



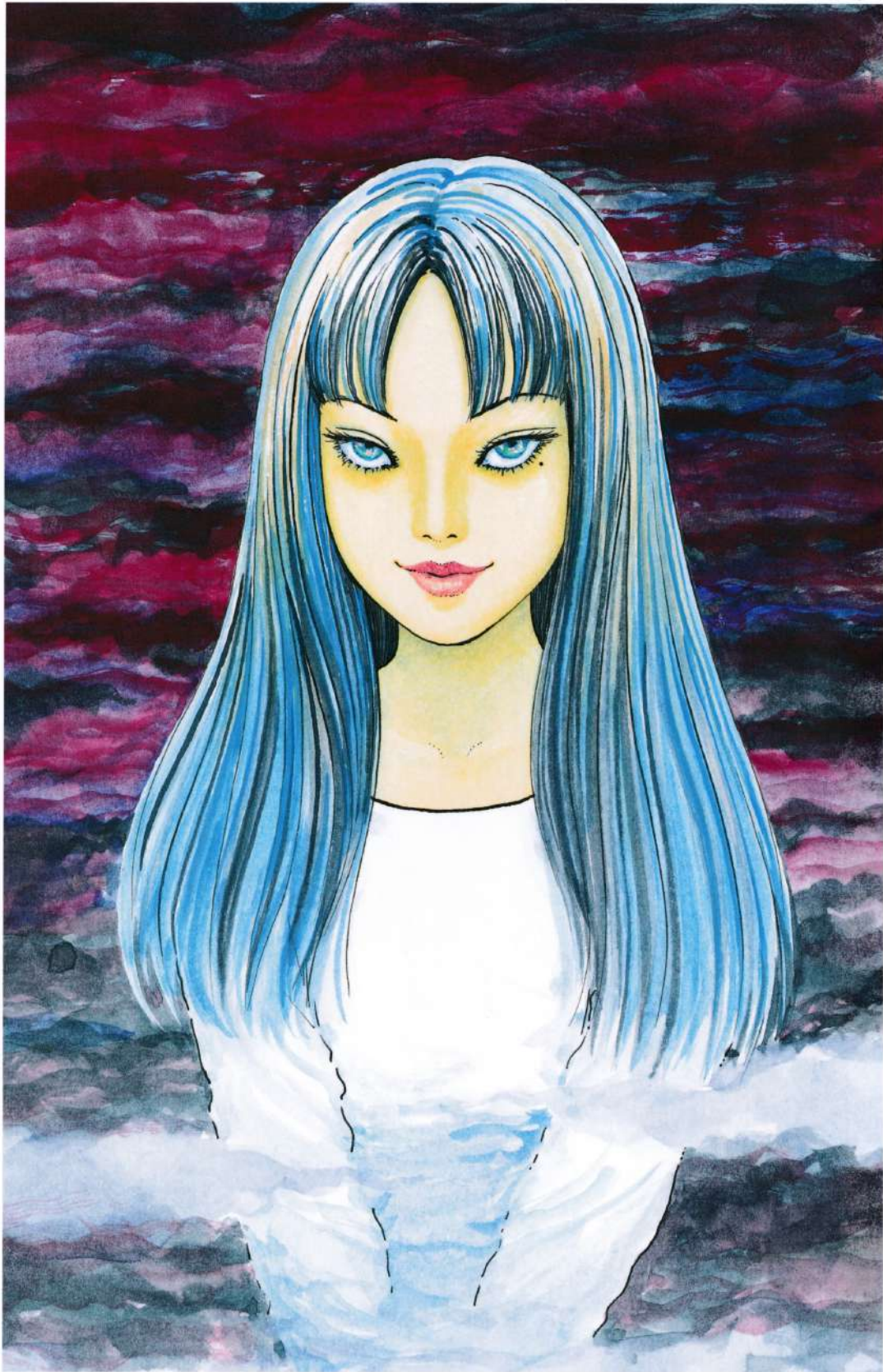


[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

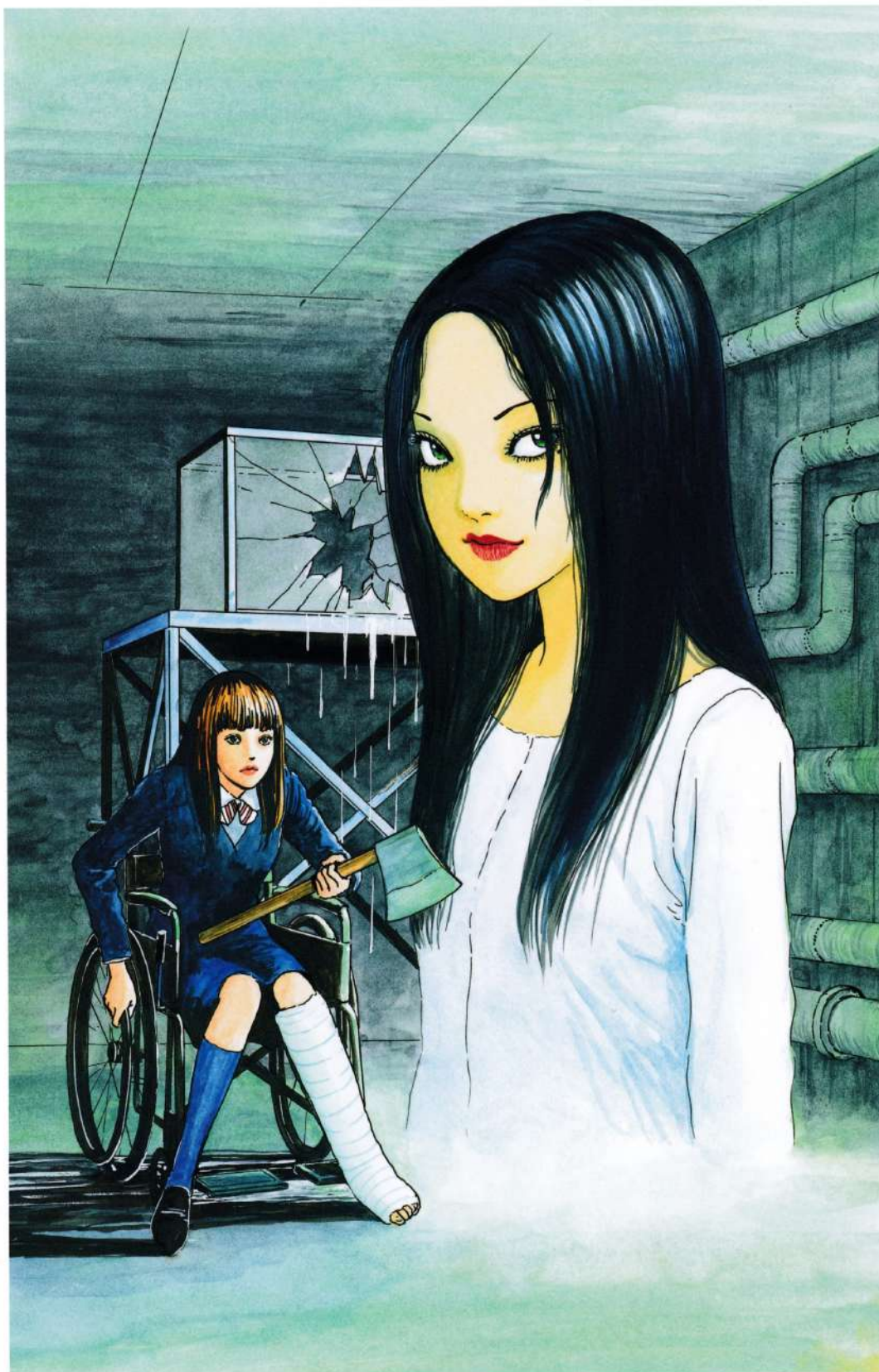


[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



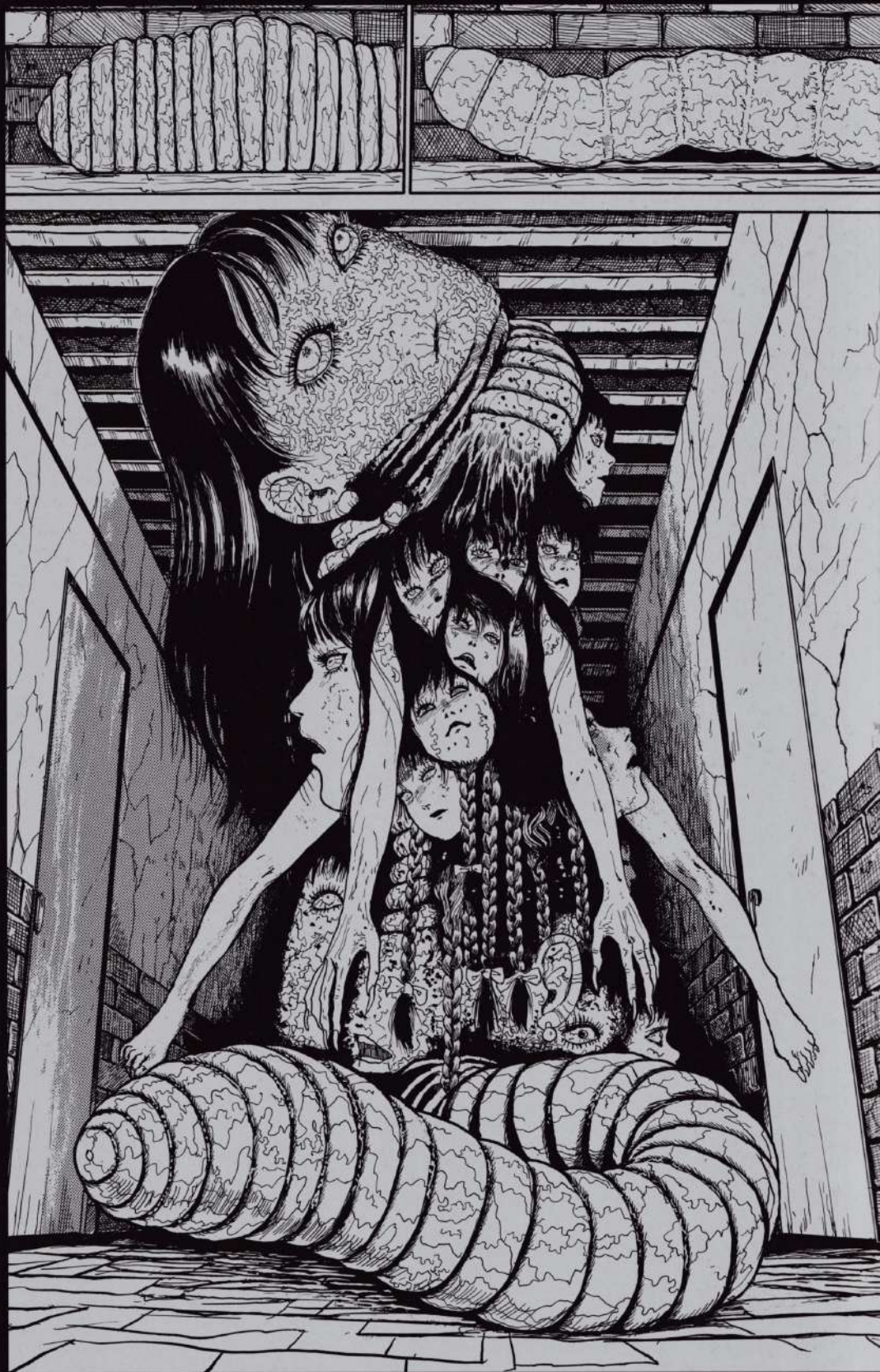


[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)





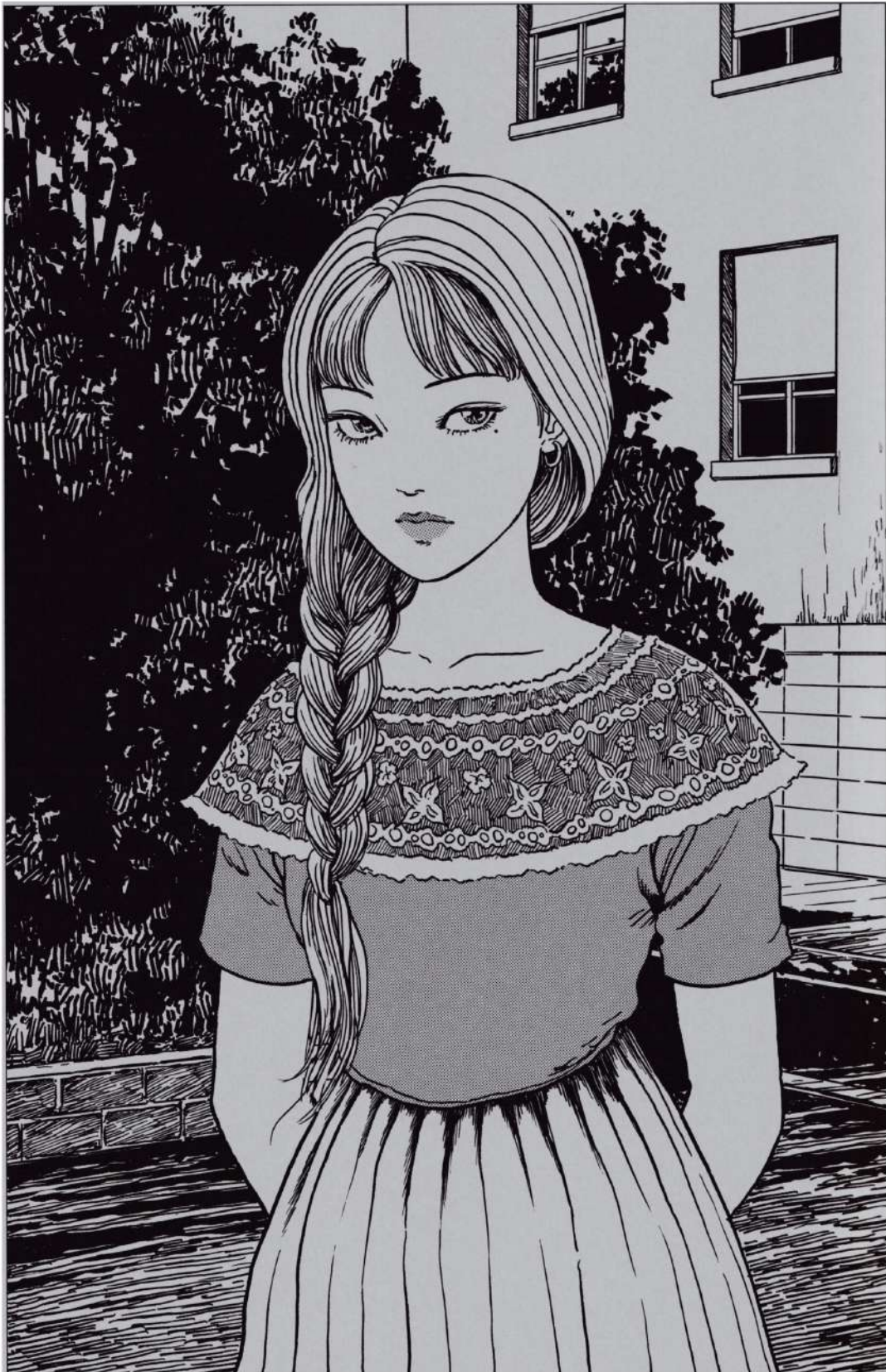
VORTEX CLADES CANDOR



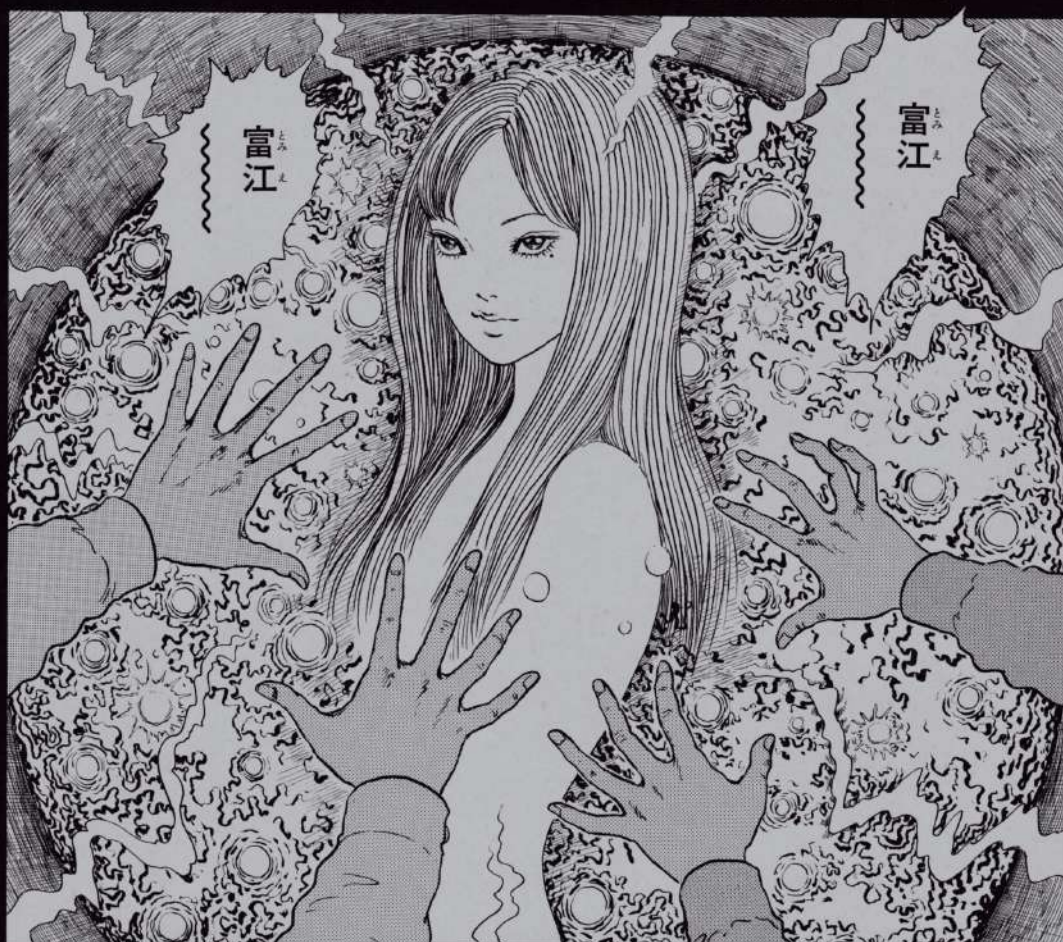
[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

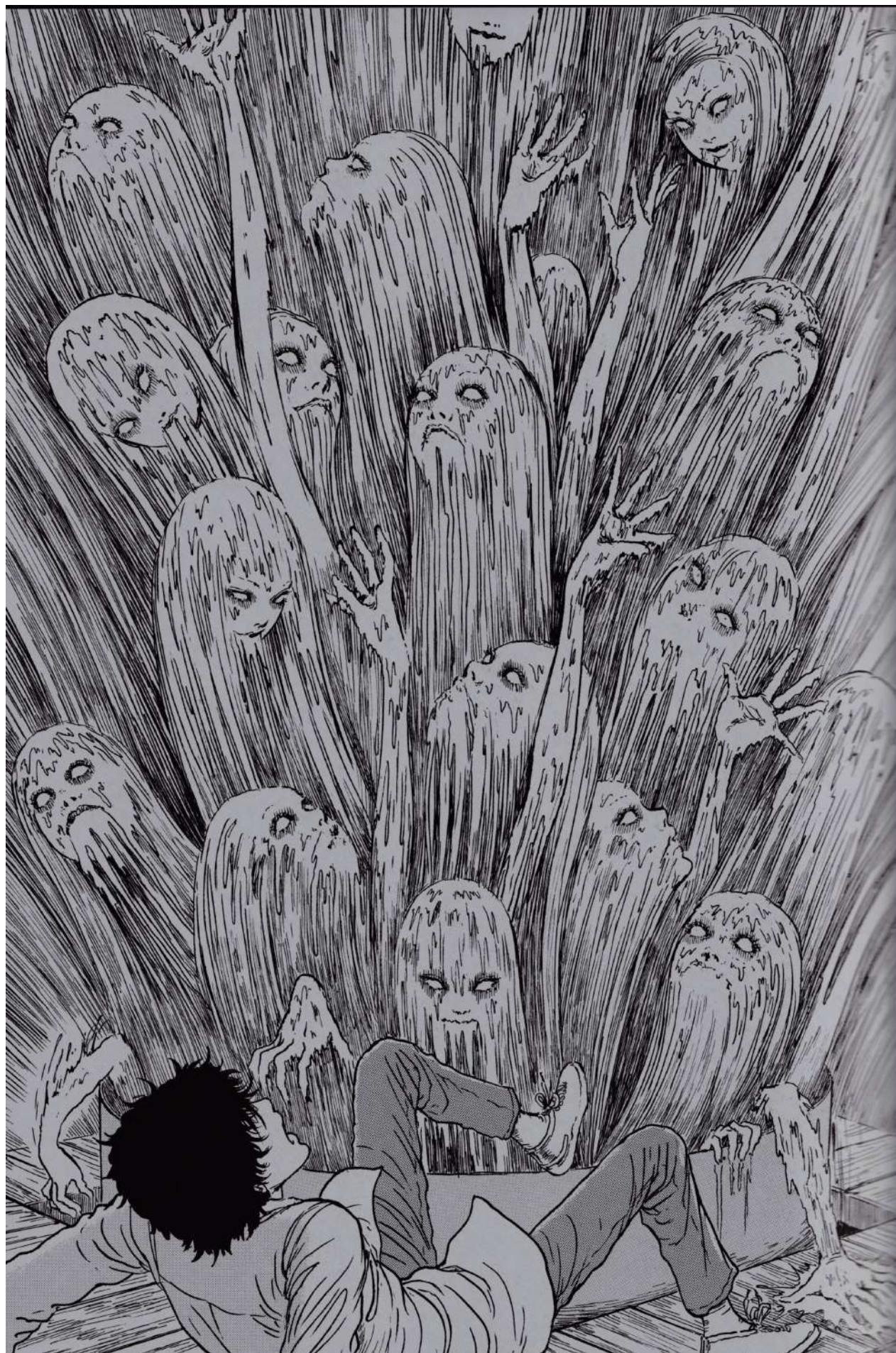


[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



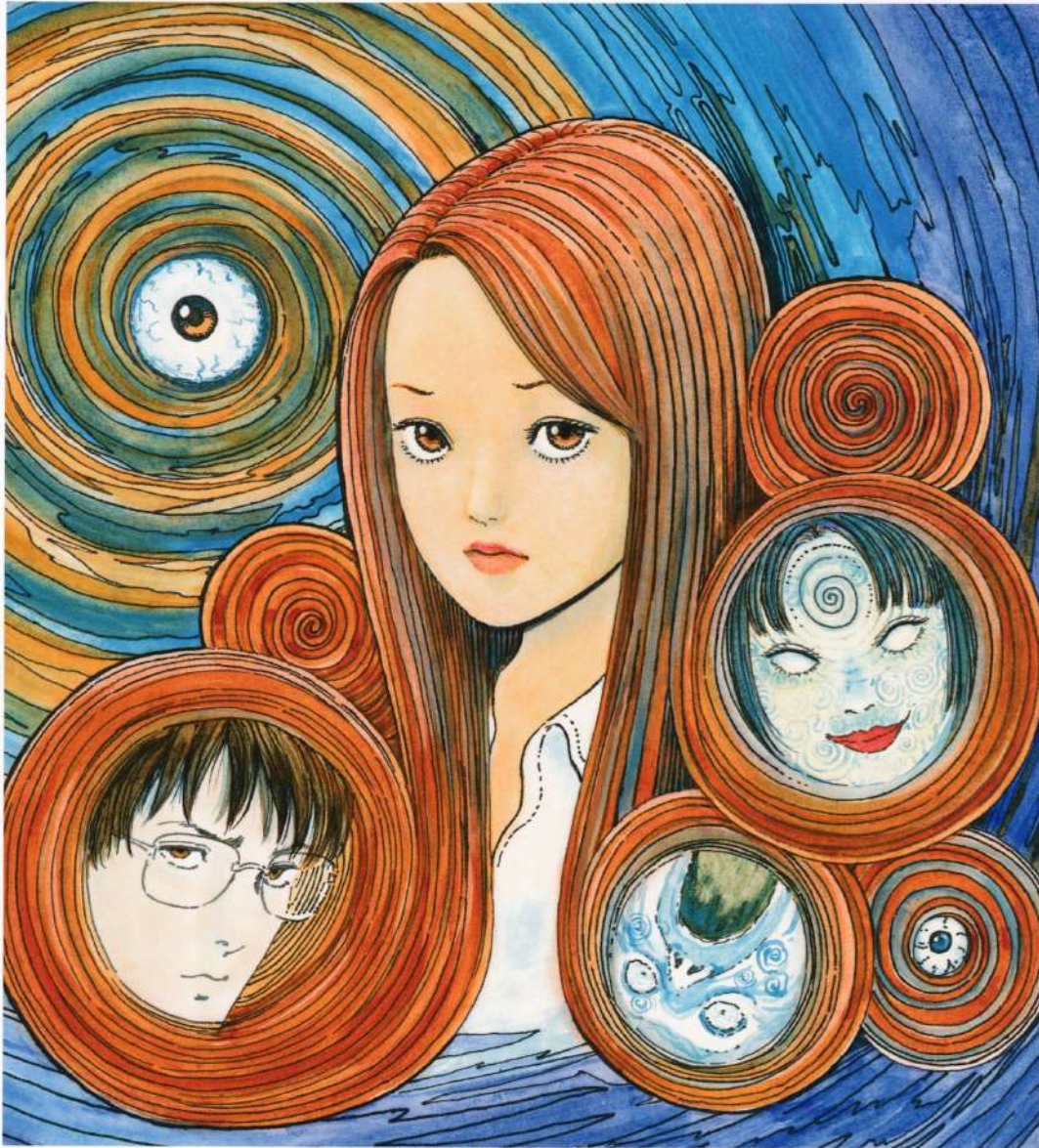




うずまき



VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

VORTEX CLADES CANDOR

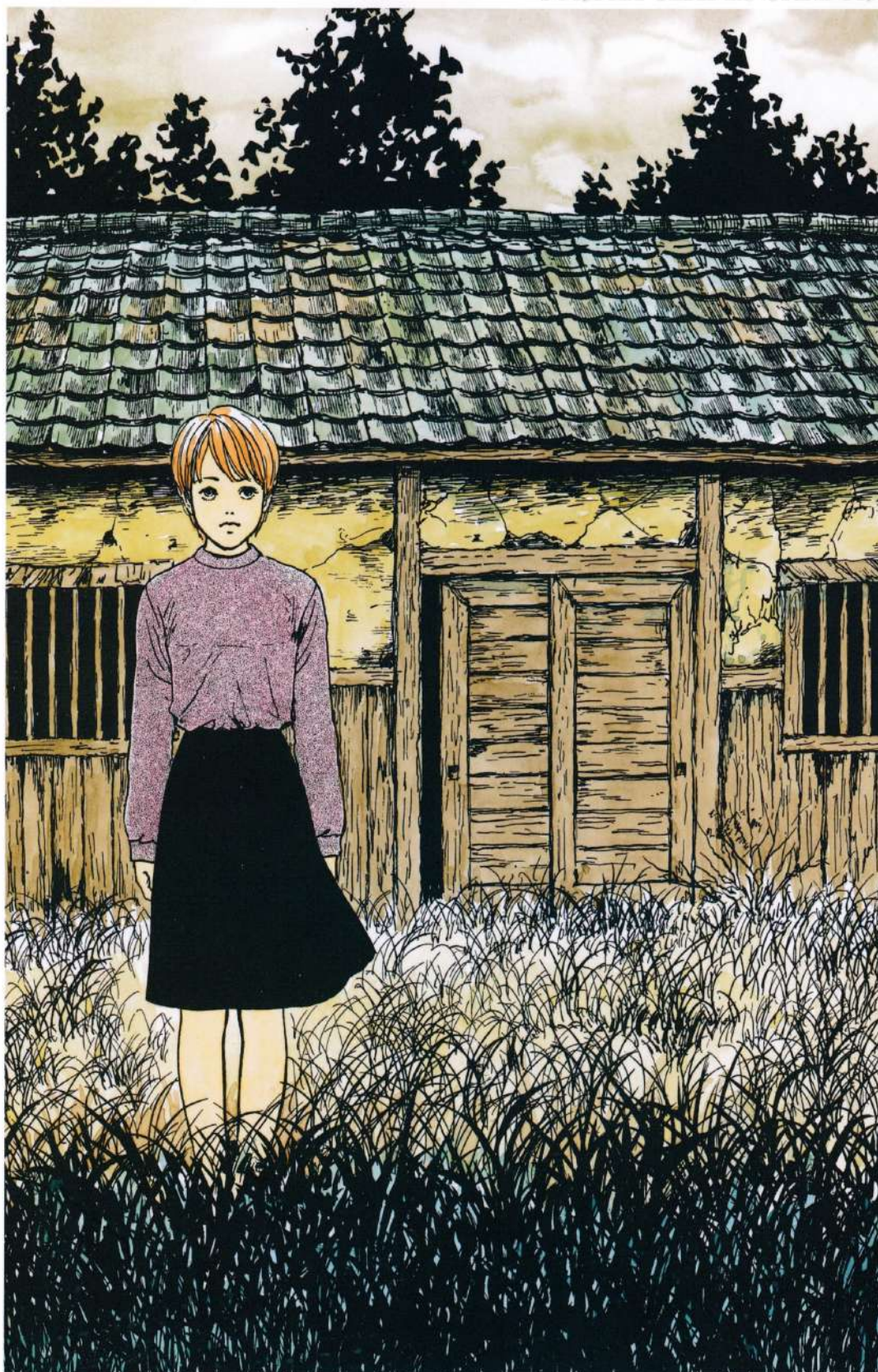


[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



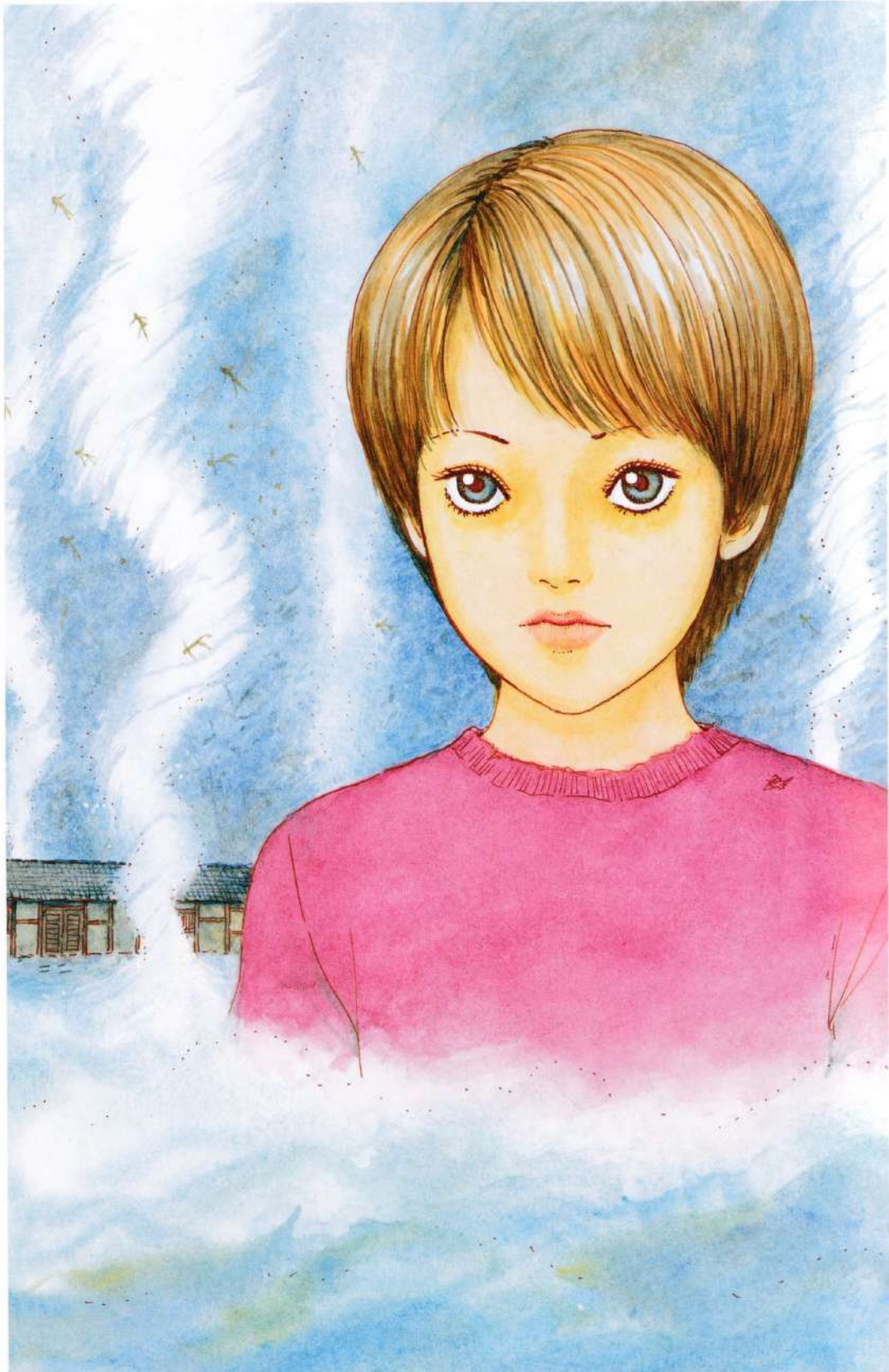


[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

VORTEX CLADES CANDOR



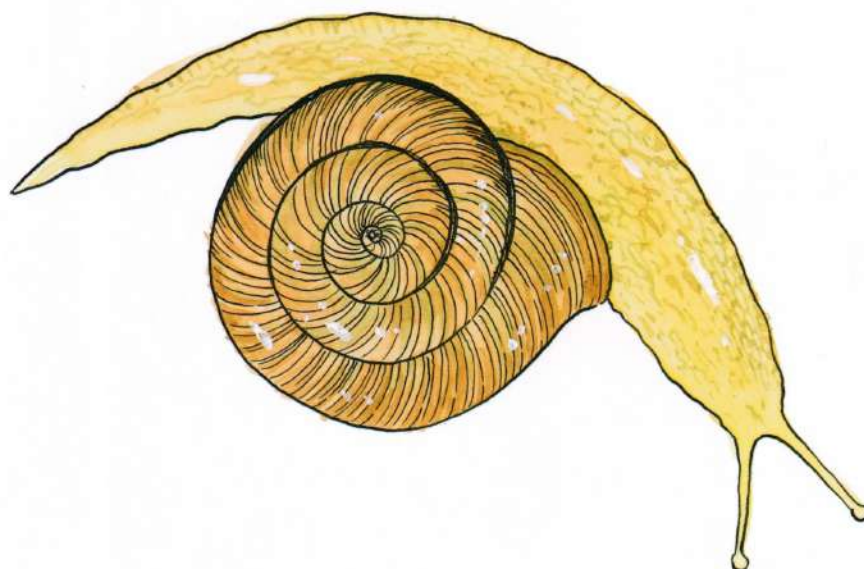
[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



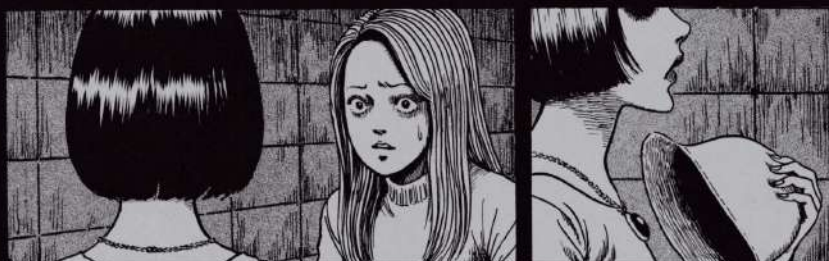








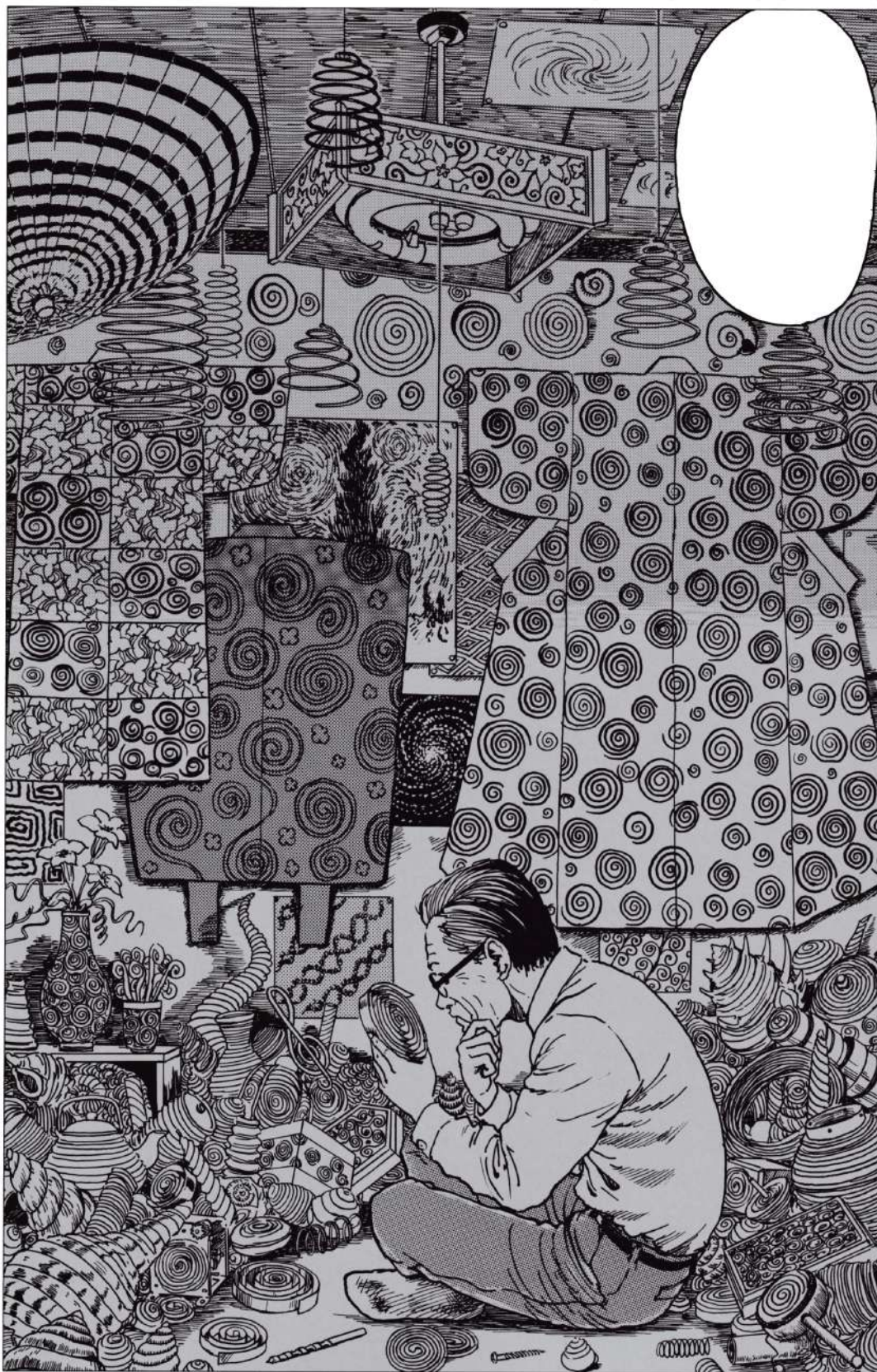






[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)





[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

OTHER WORKS



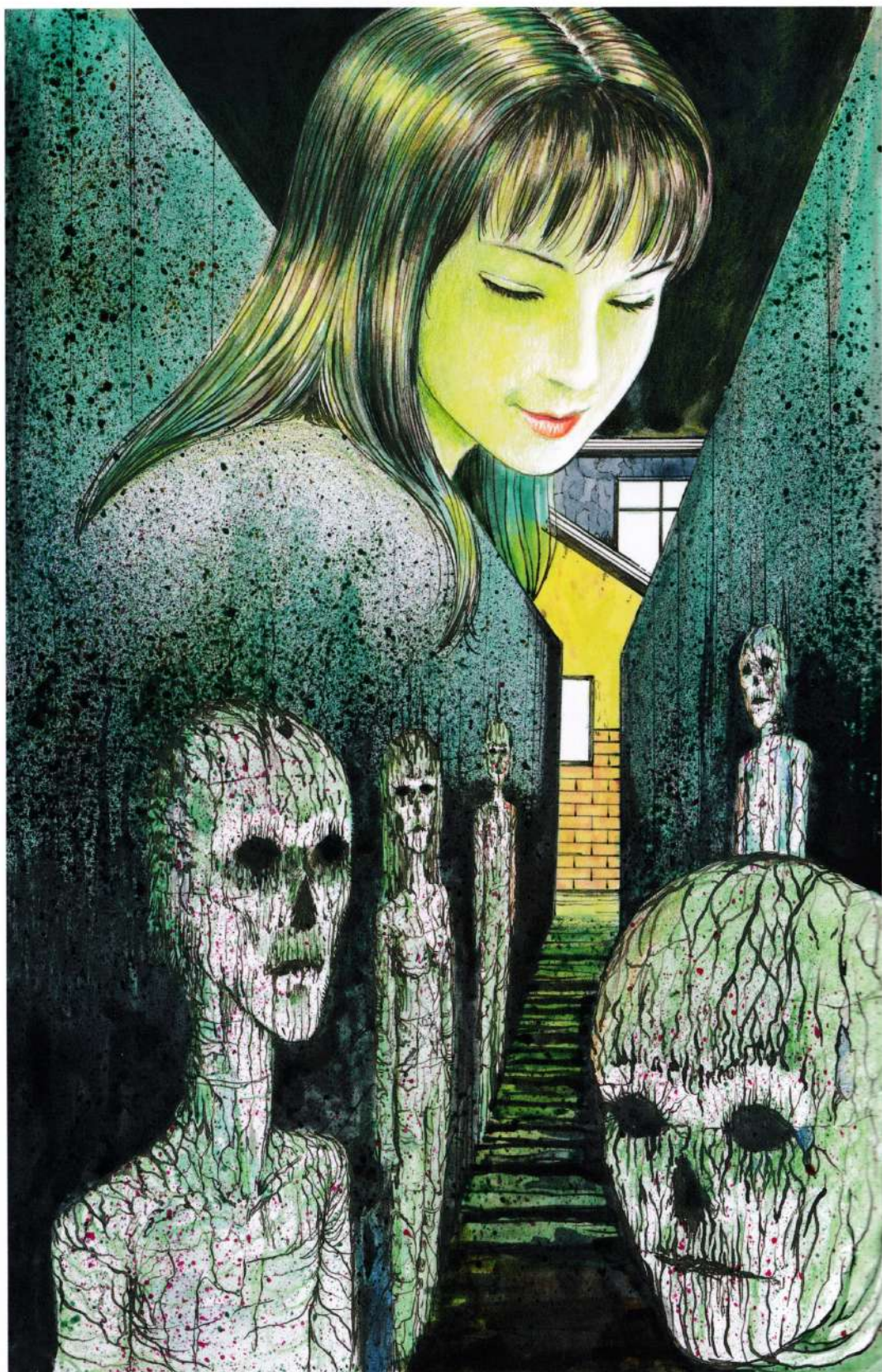
VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

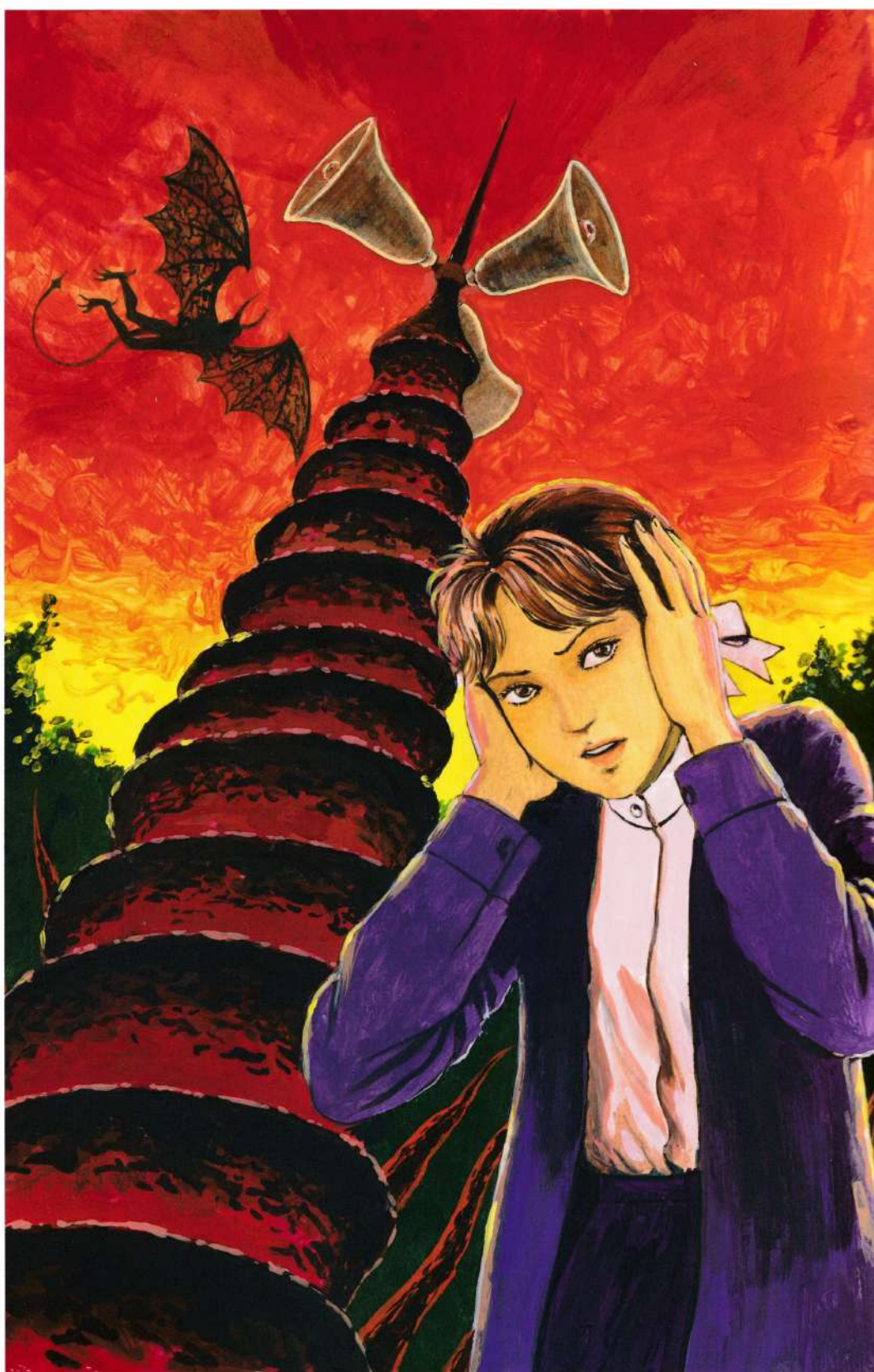


VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)





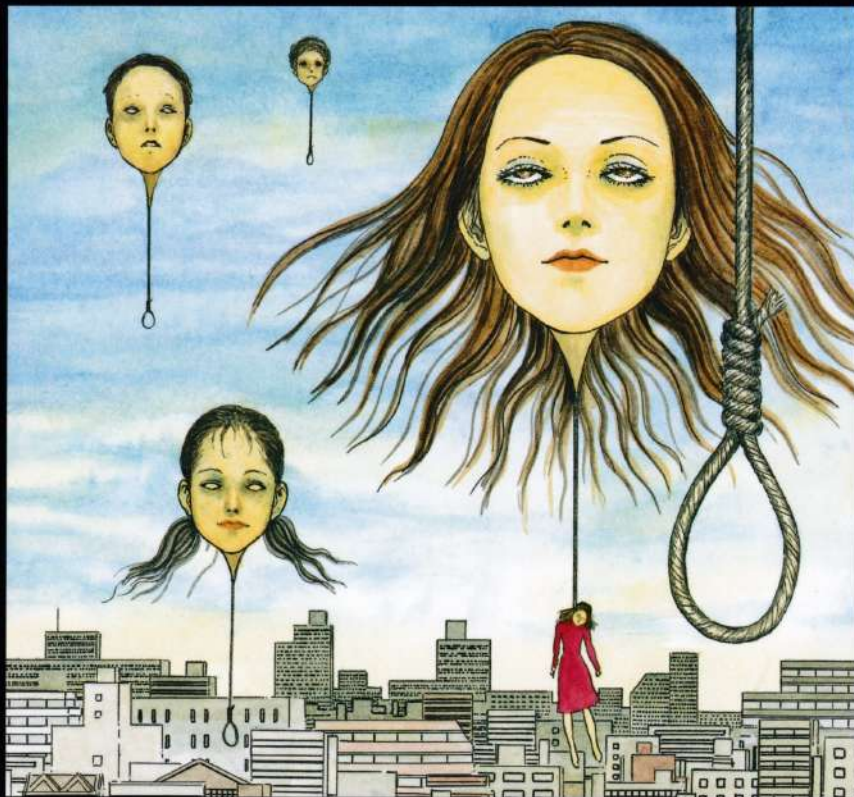


[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)











VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

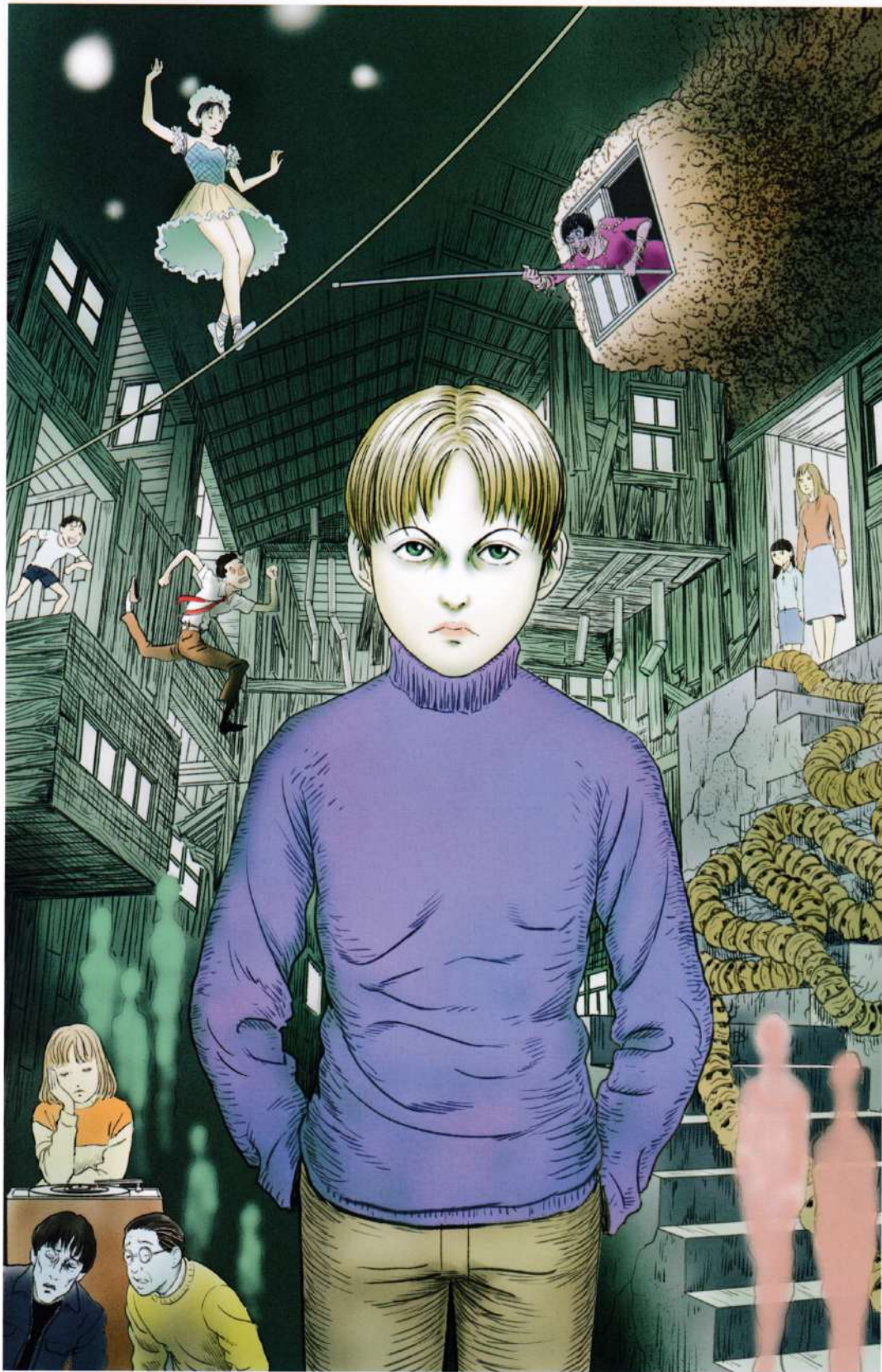


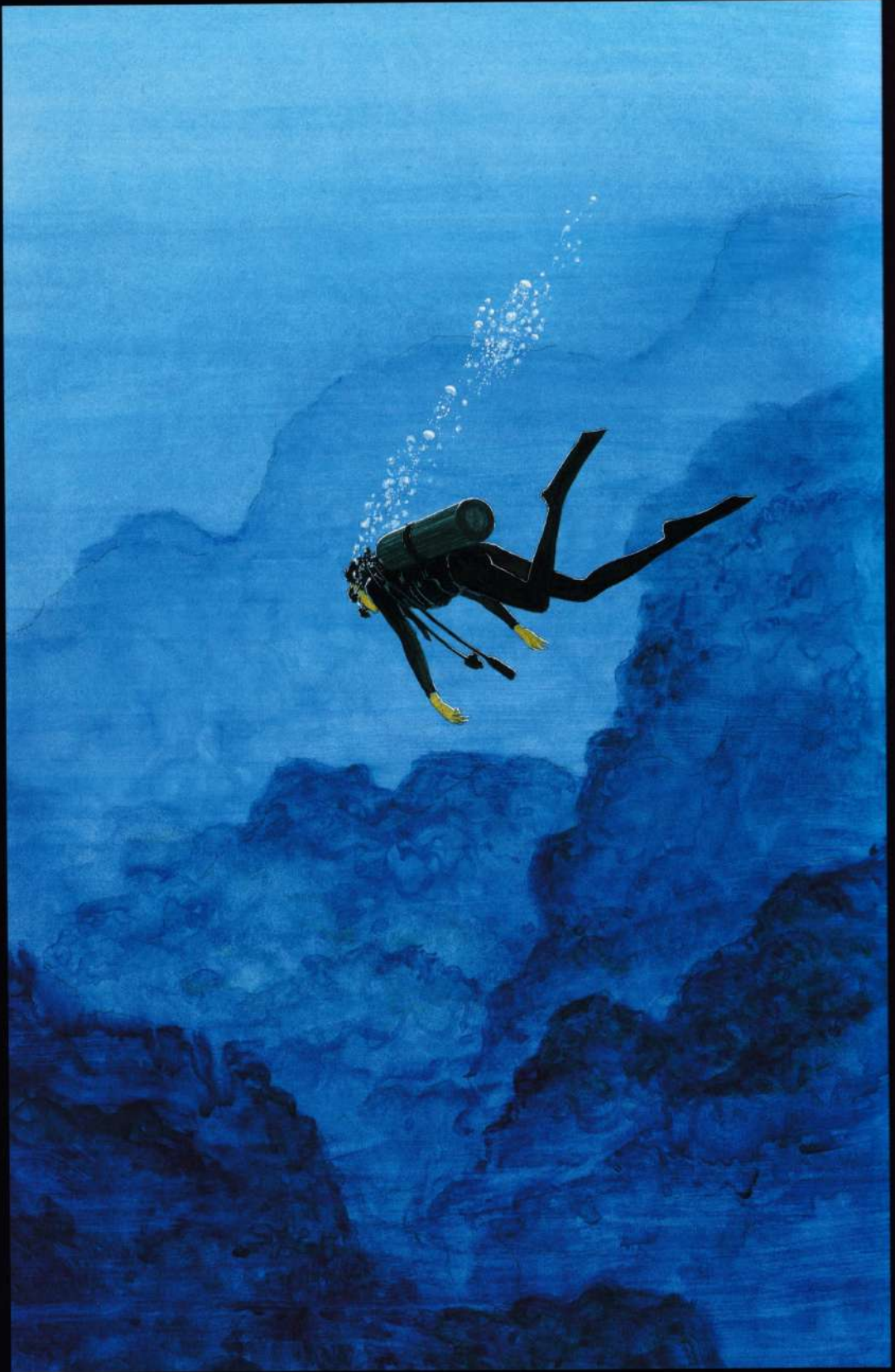
[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



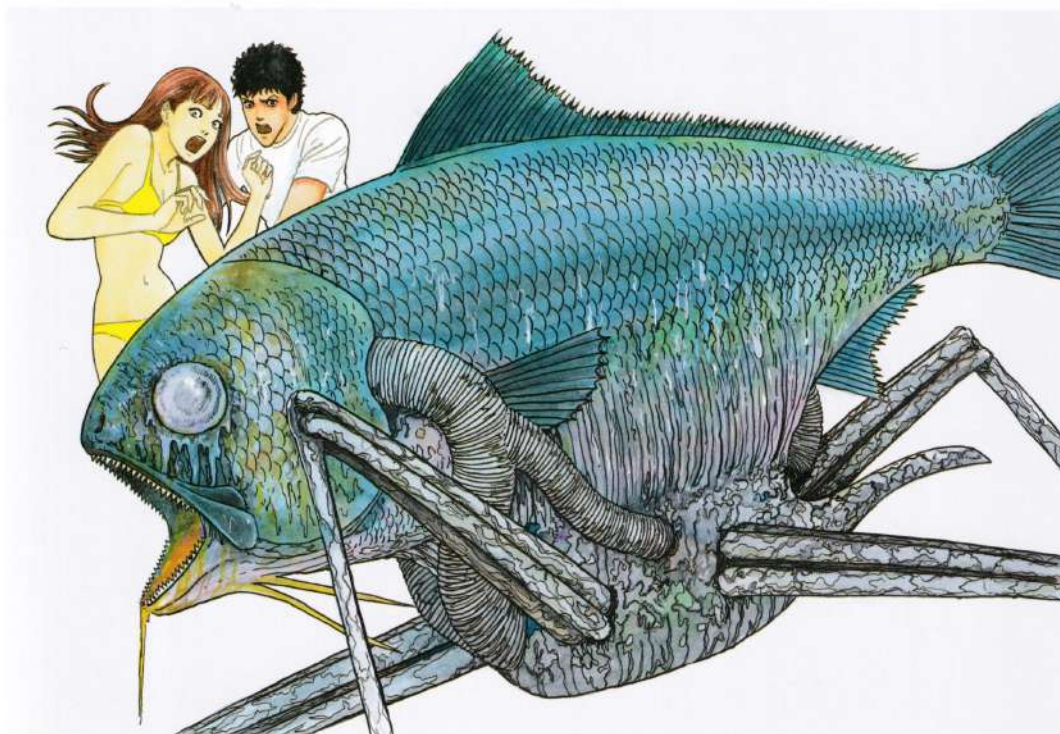
[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)







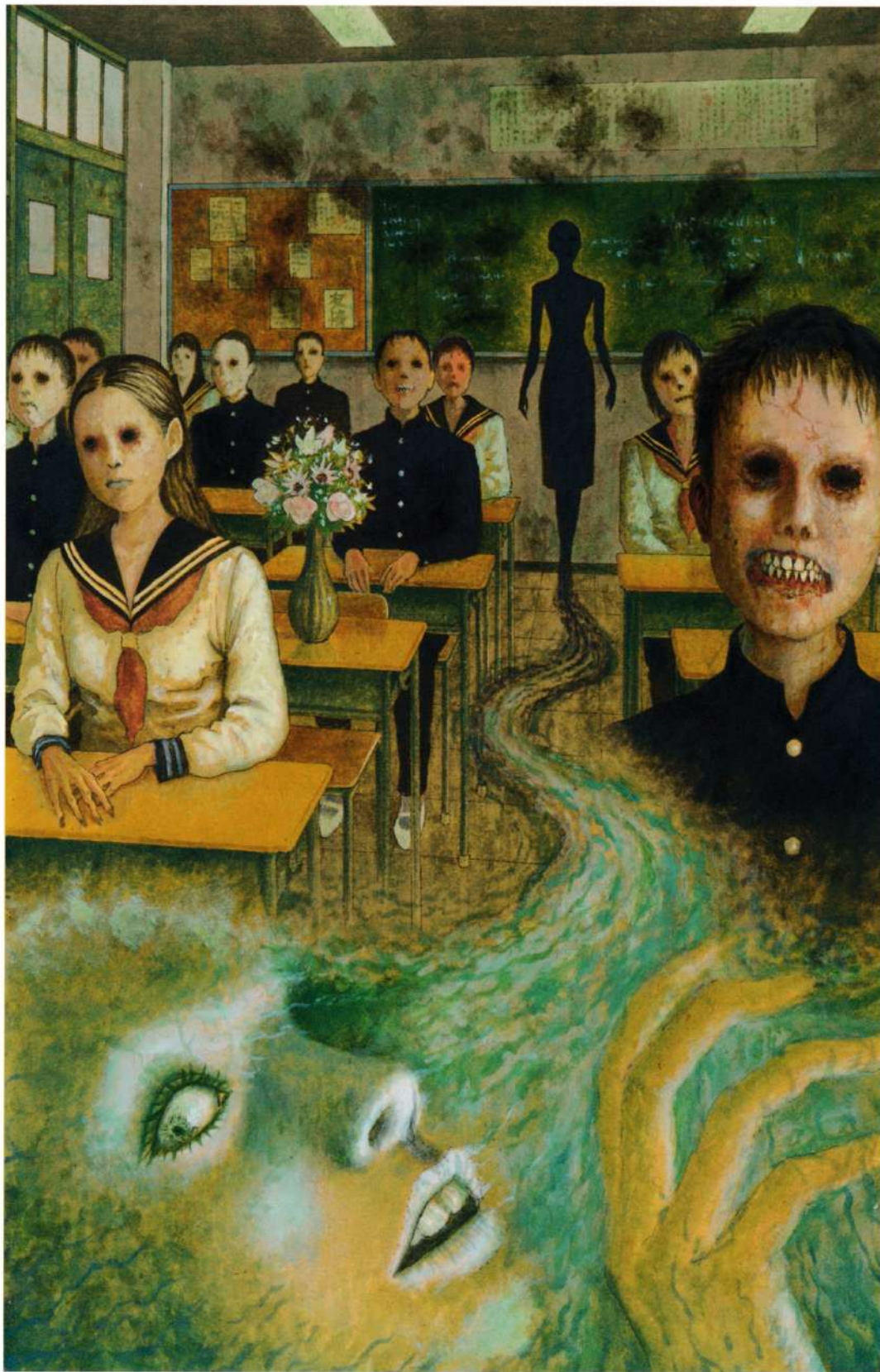




VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

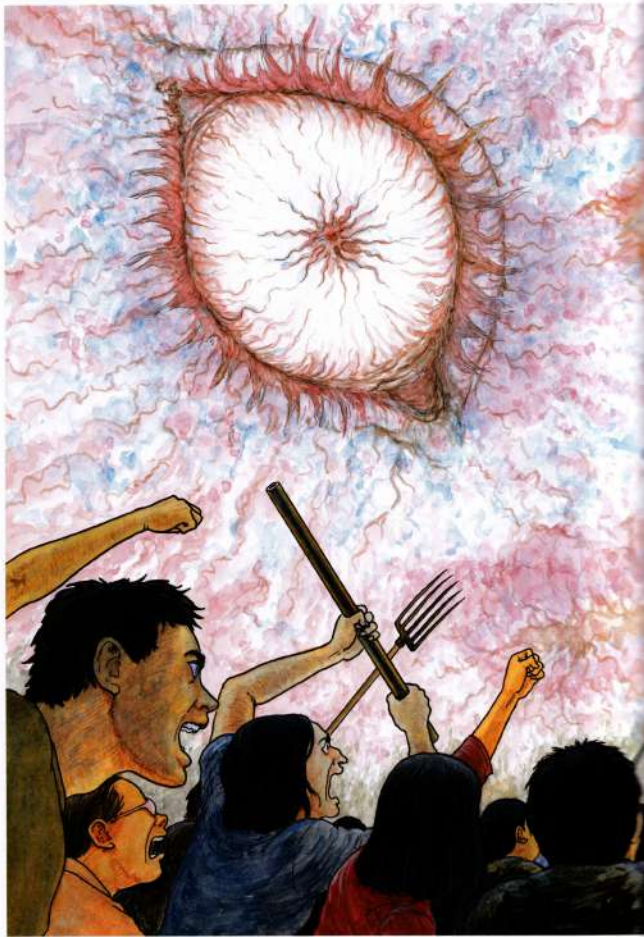


[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

VORTEX CLADES CANDOR

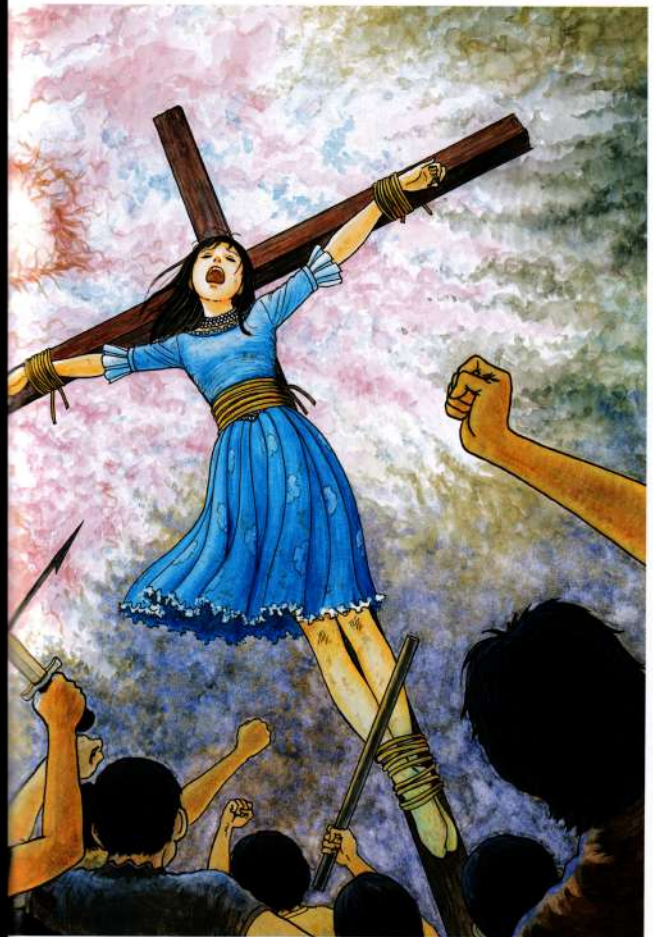


[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



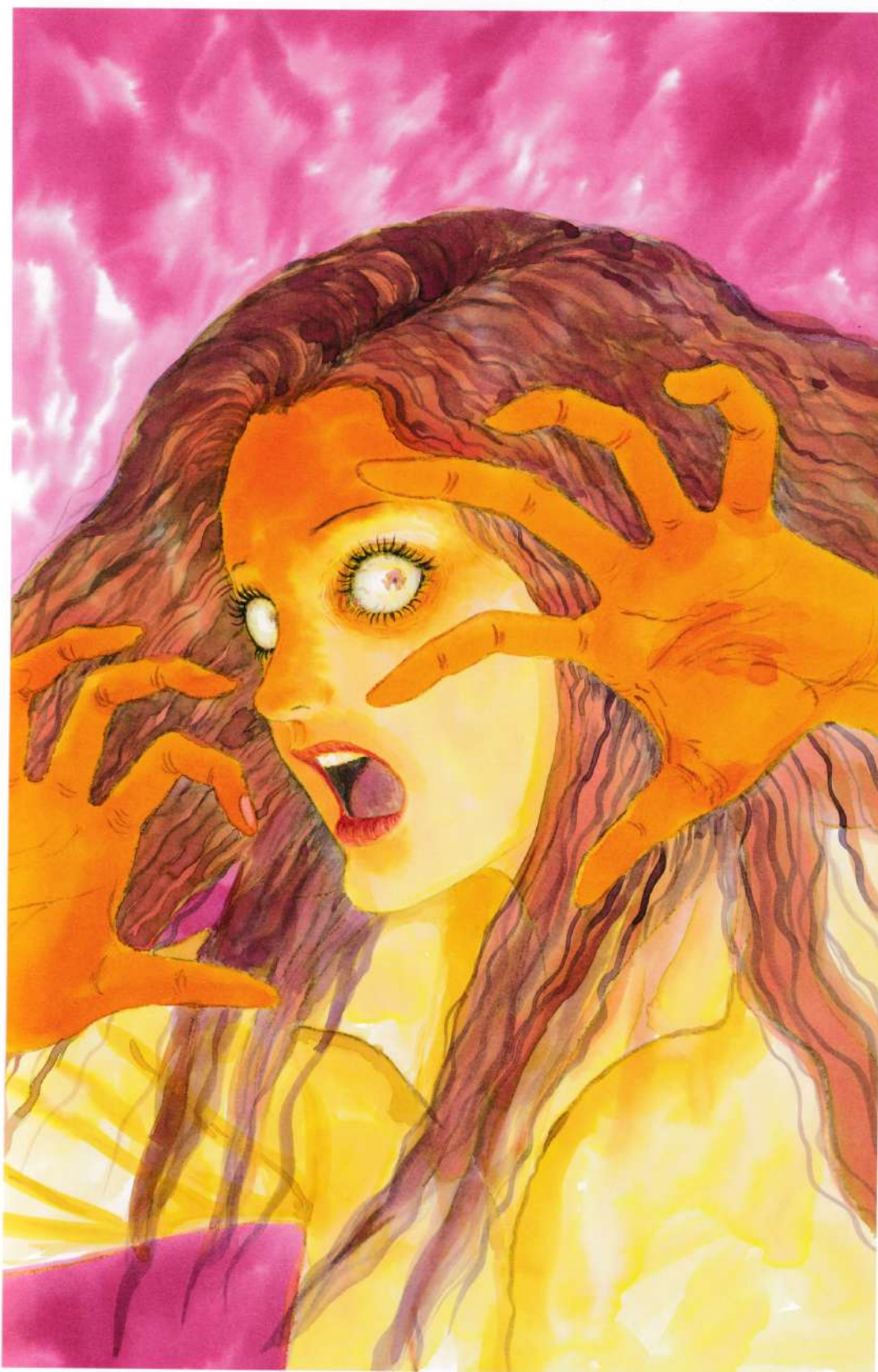
[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

VORTEX CLADES CANDOR









[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

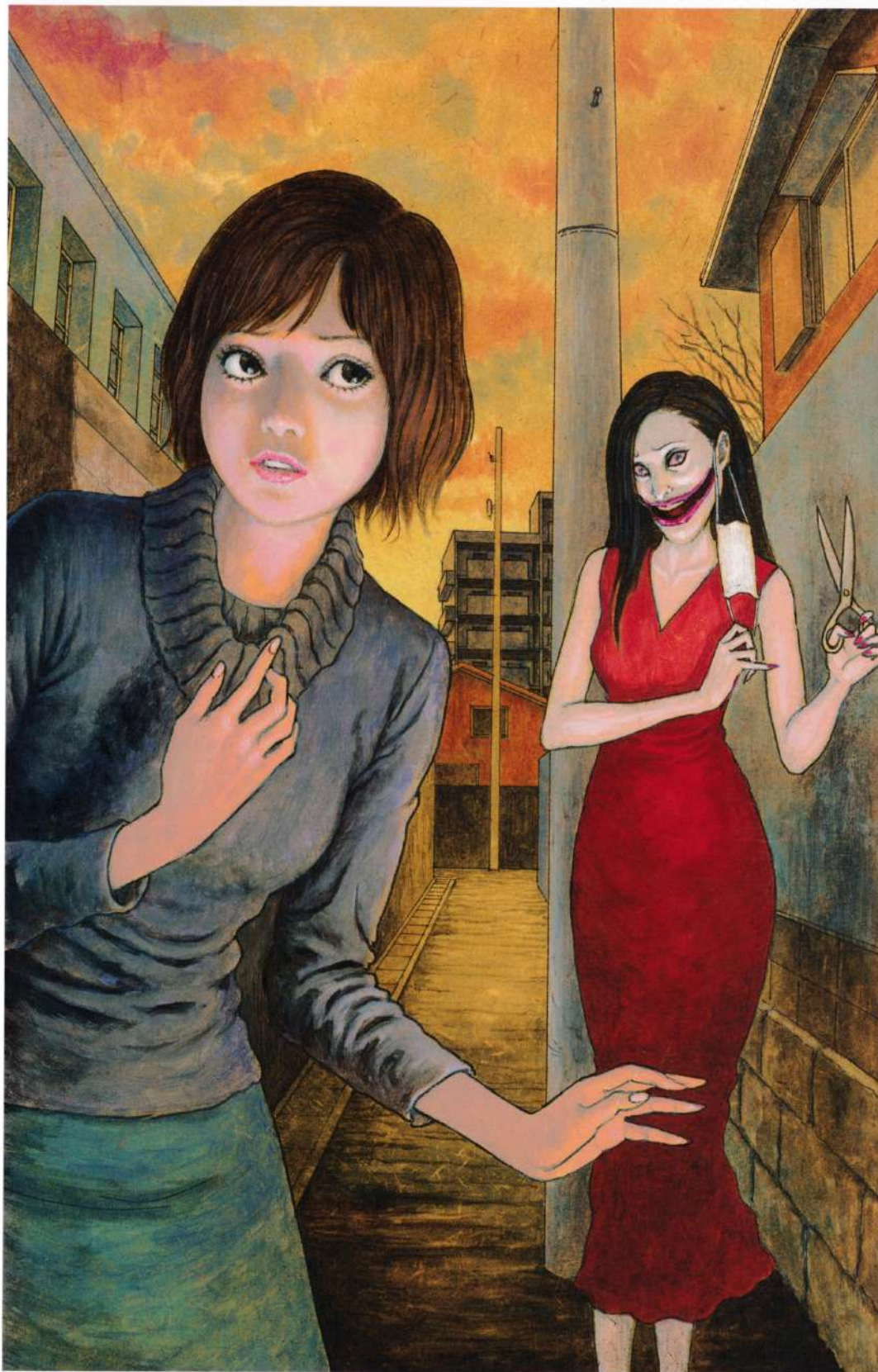
VORTEX CLADES CANDOR



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)











[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

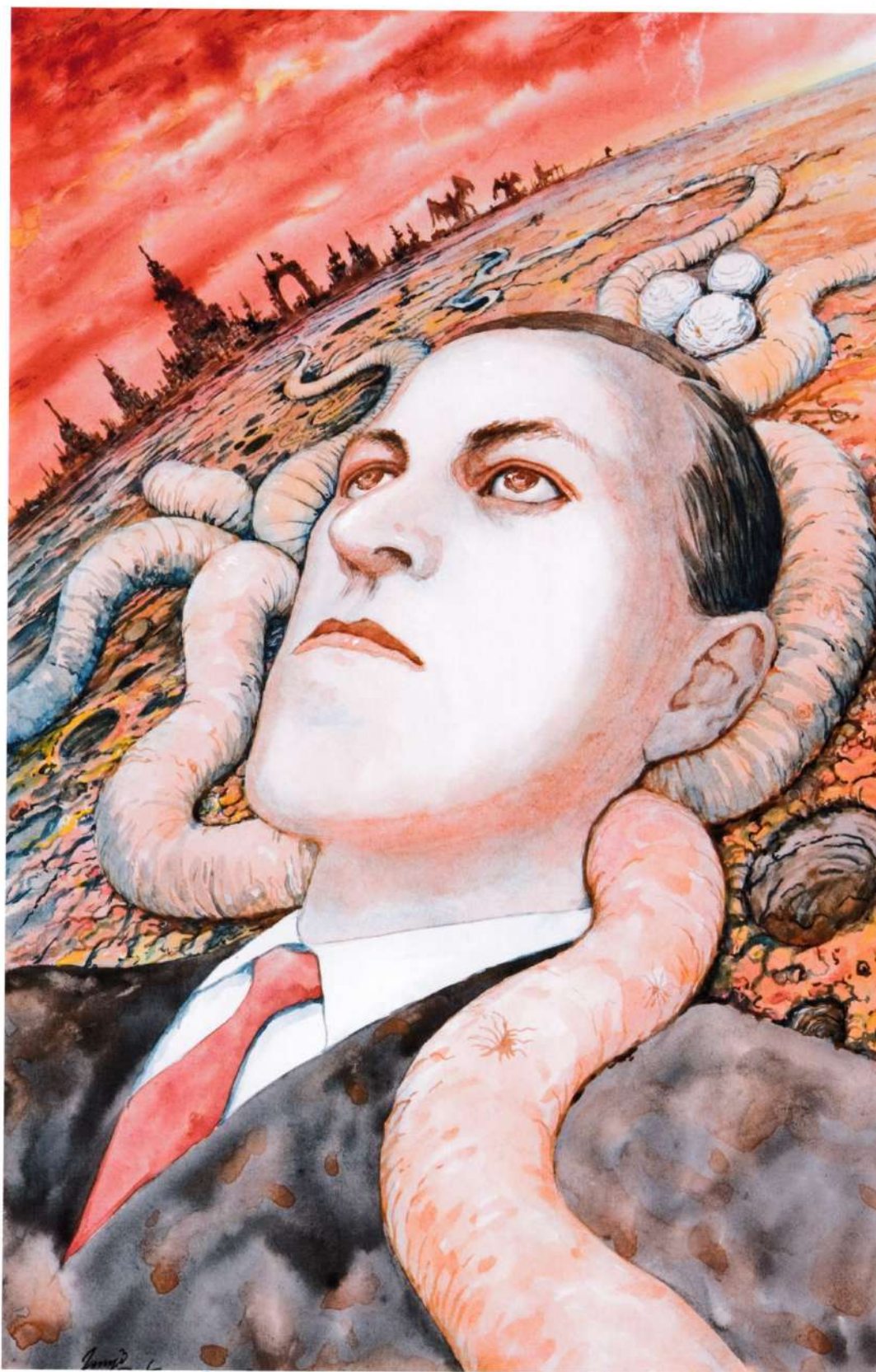


[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)





[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

VORTEX CLADES CANDOR

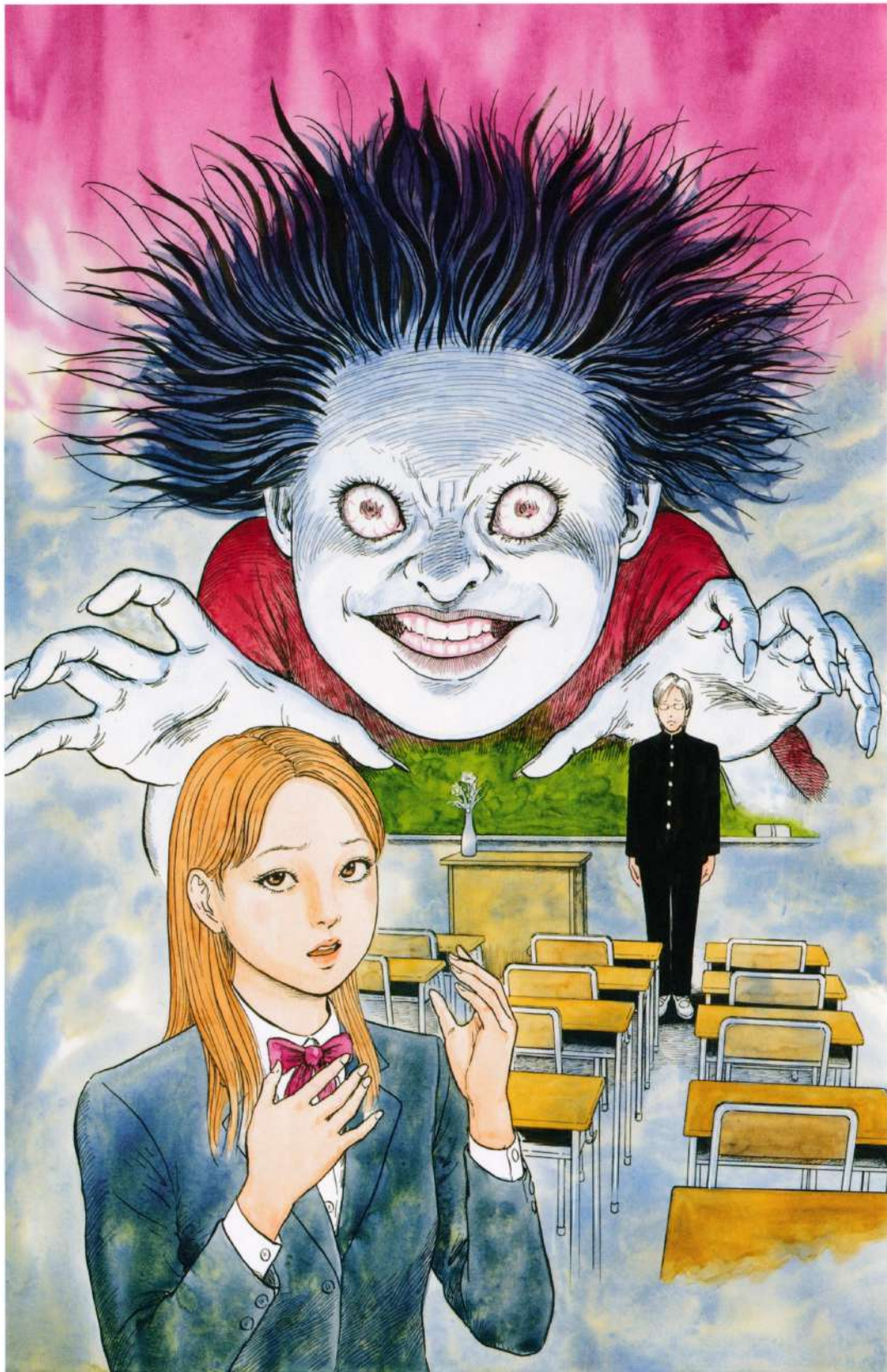










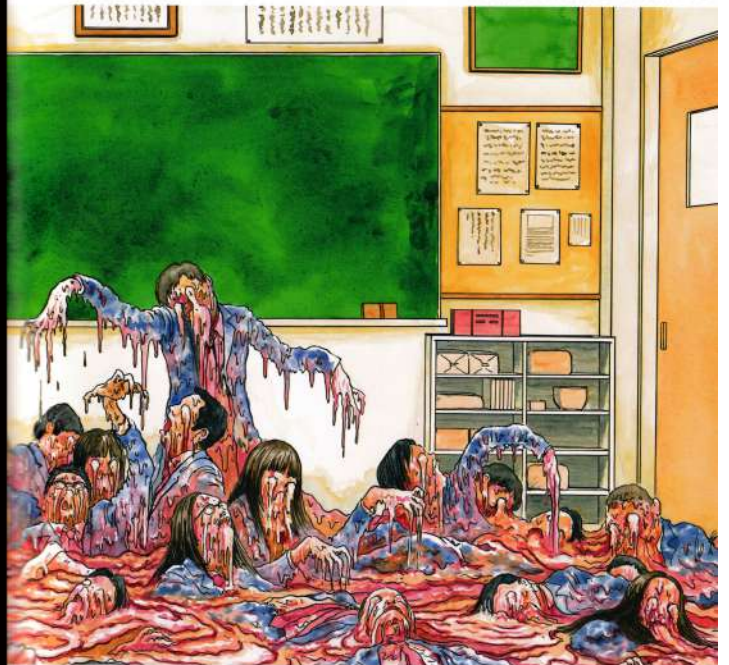


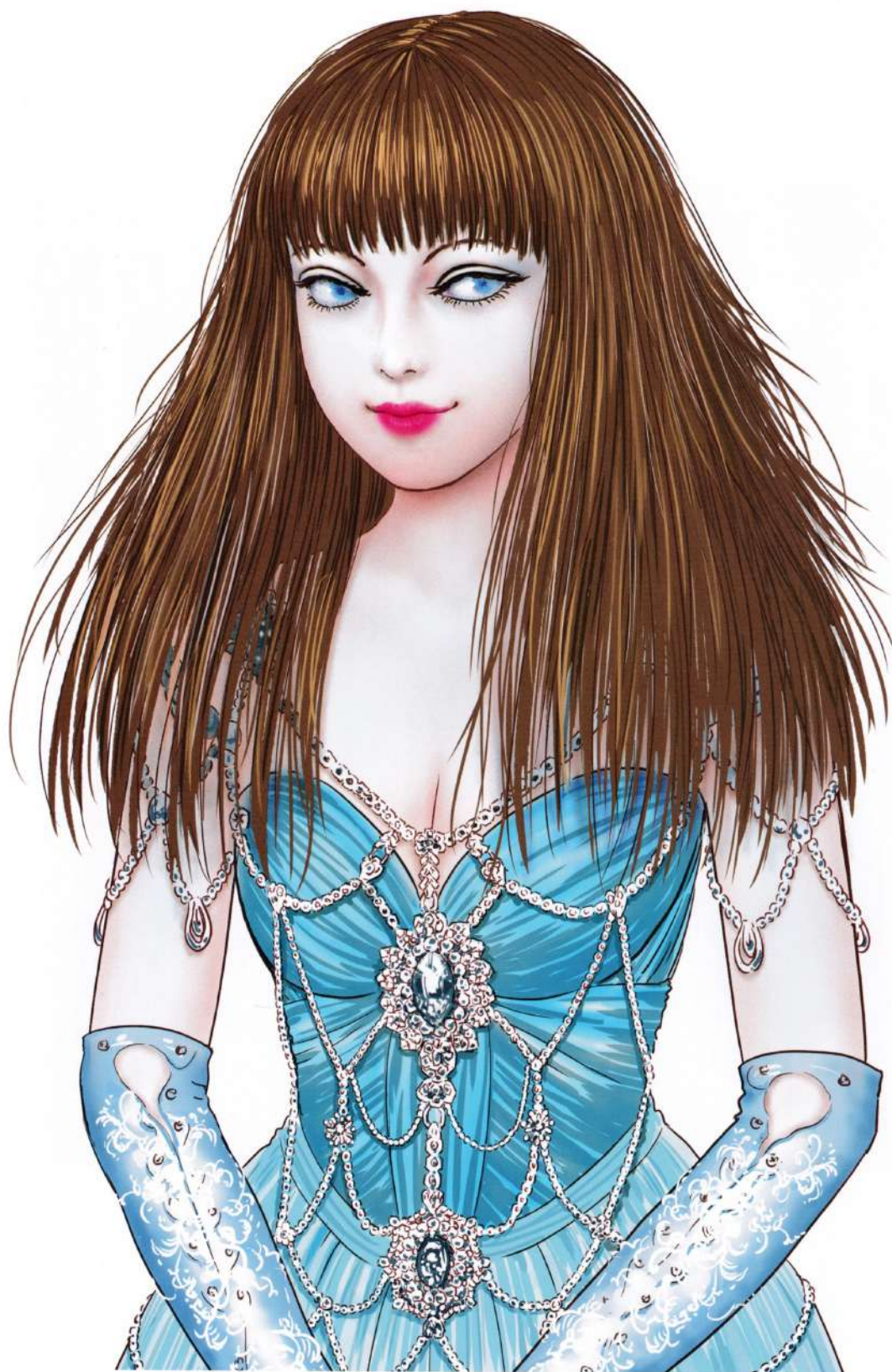
[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)

VORTEX CLADES CANDOR







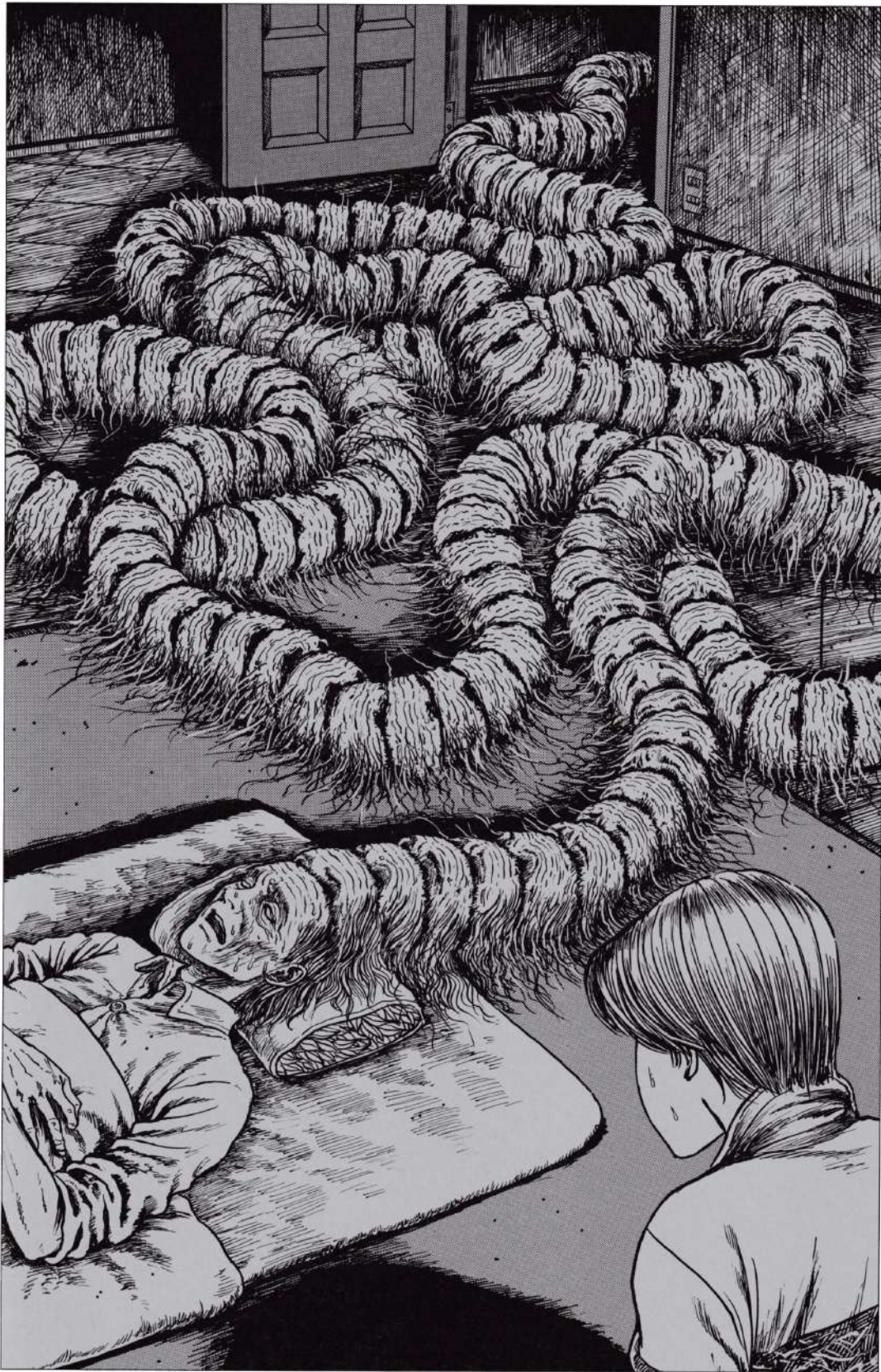
[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)





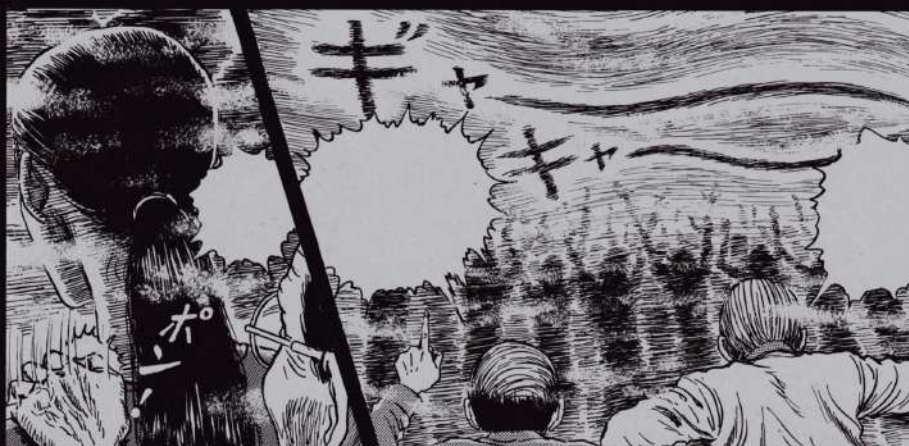








[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



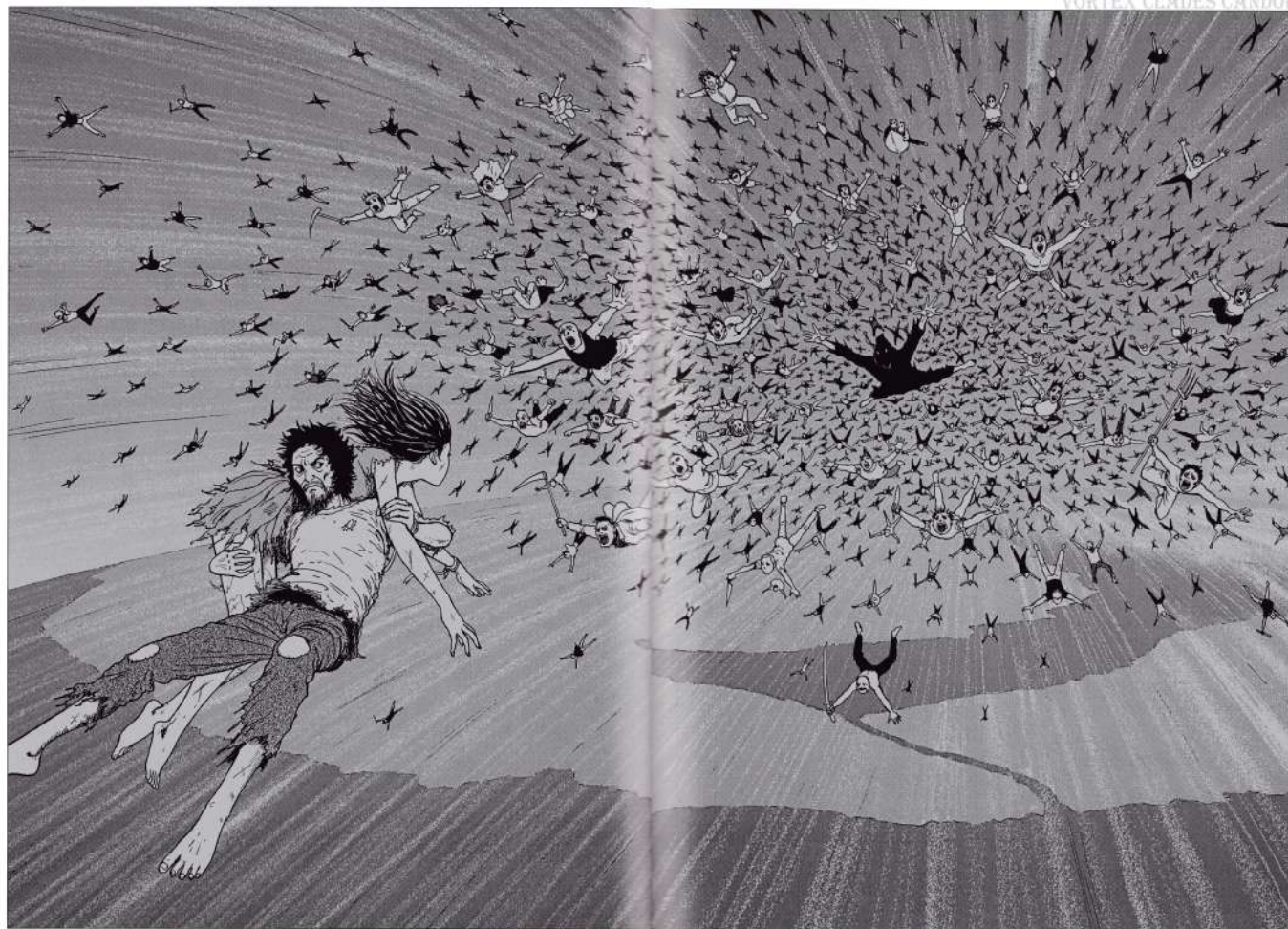




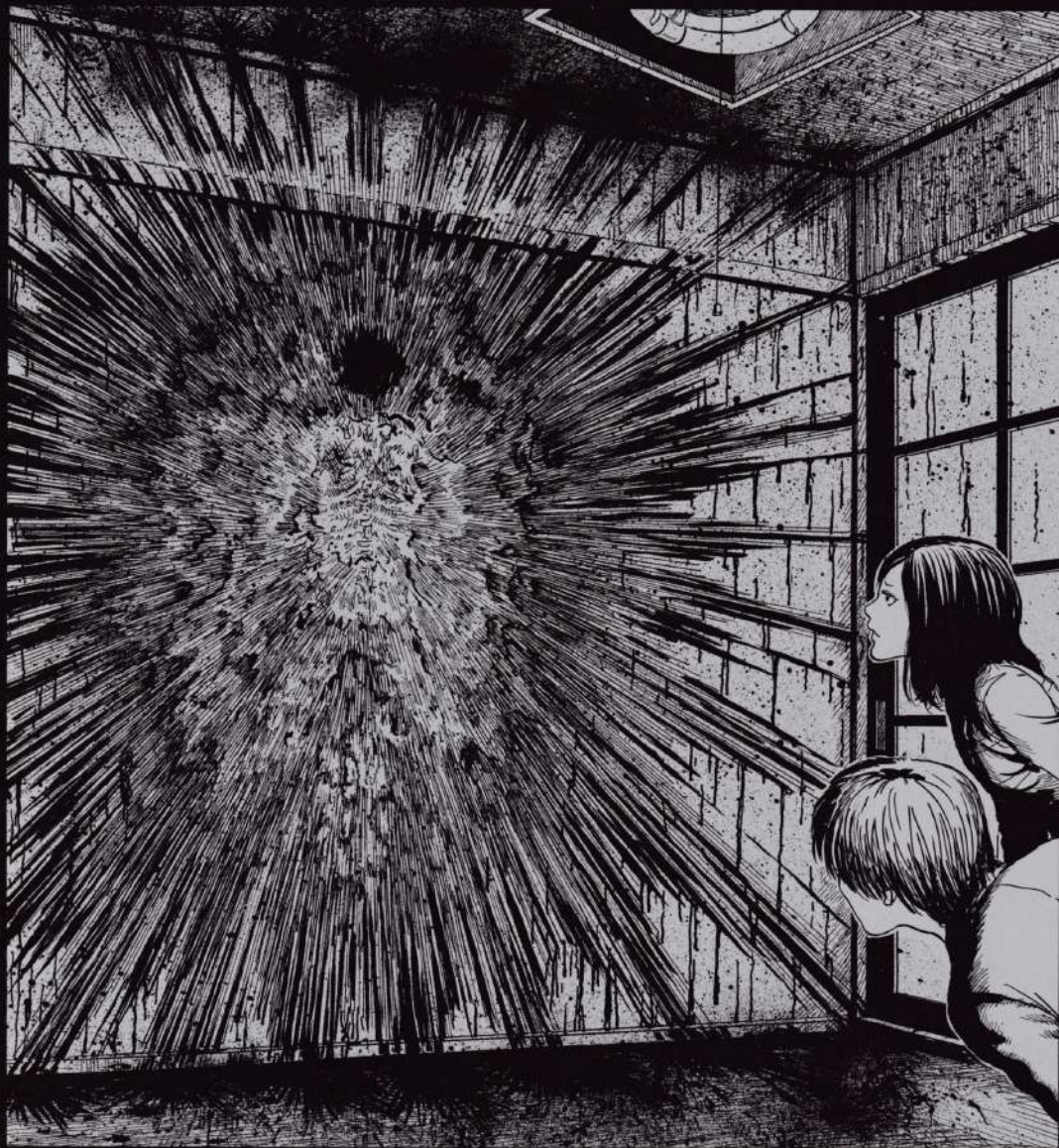
VORTEX CLADES CANDOR

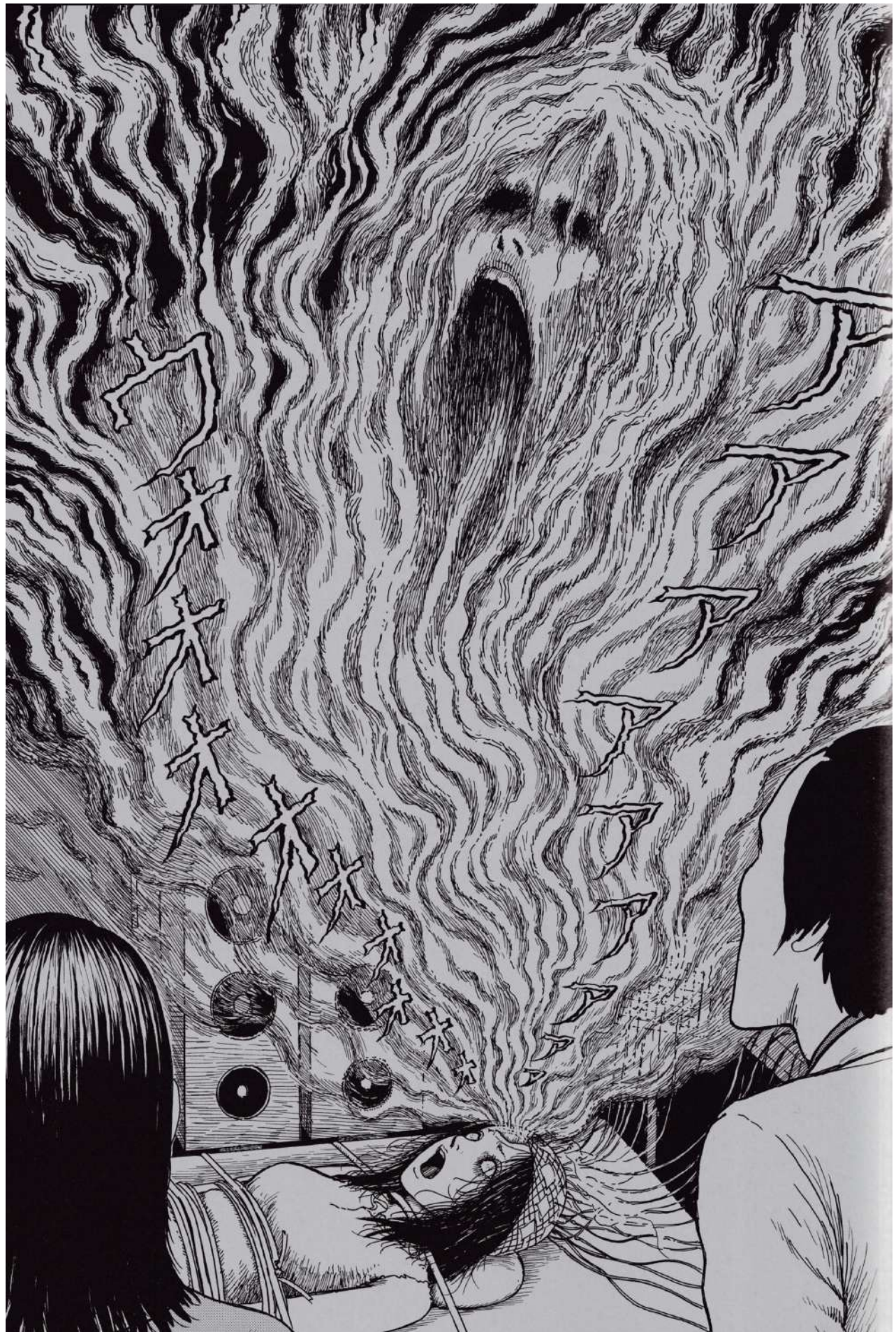


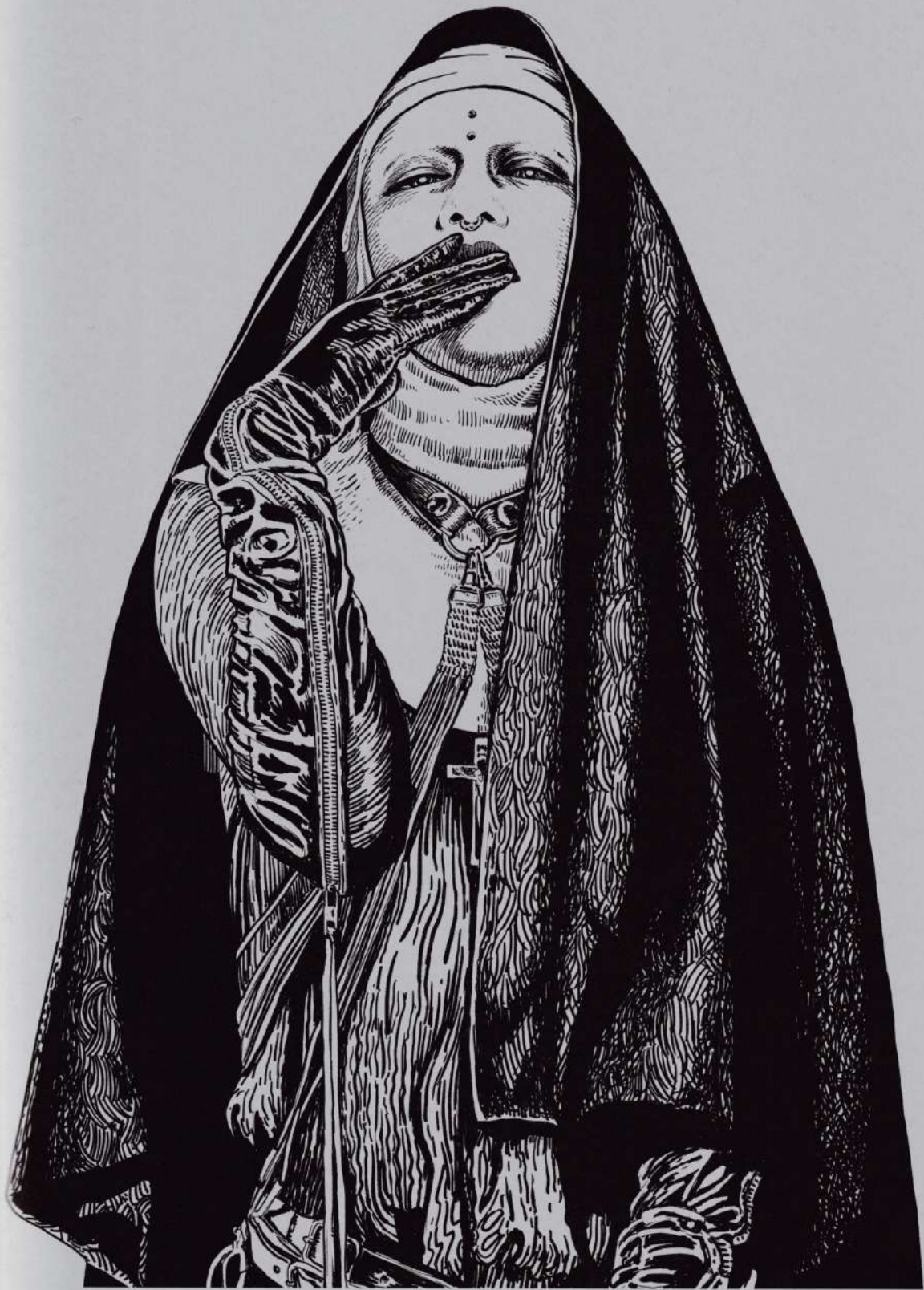
[HTTPS://PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT.COM](https://psycho-paradox.blogspot.com)



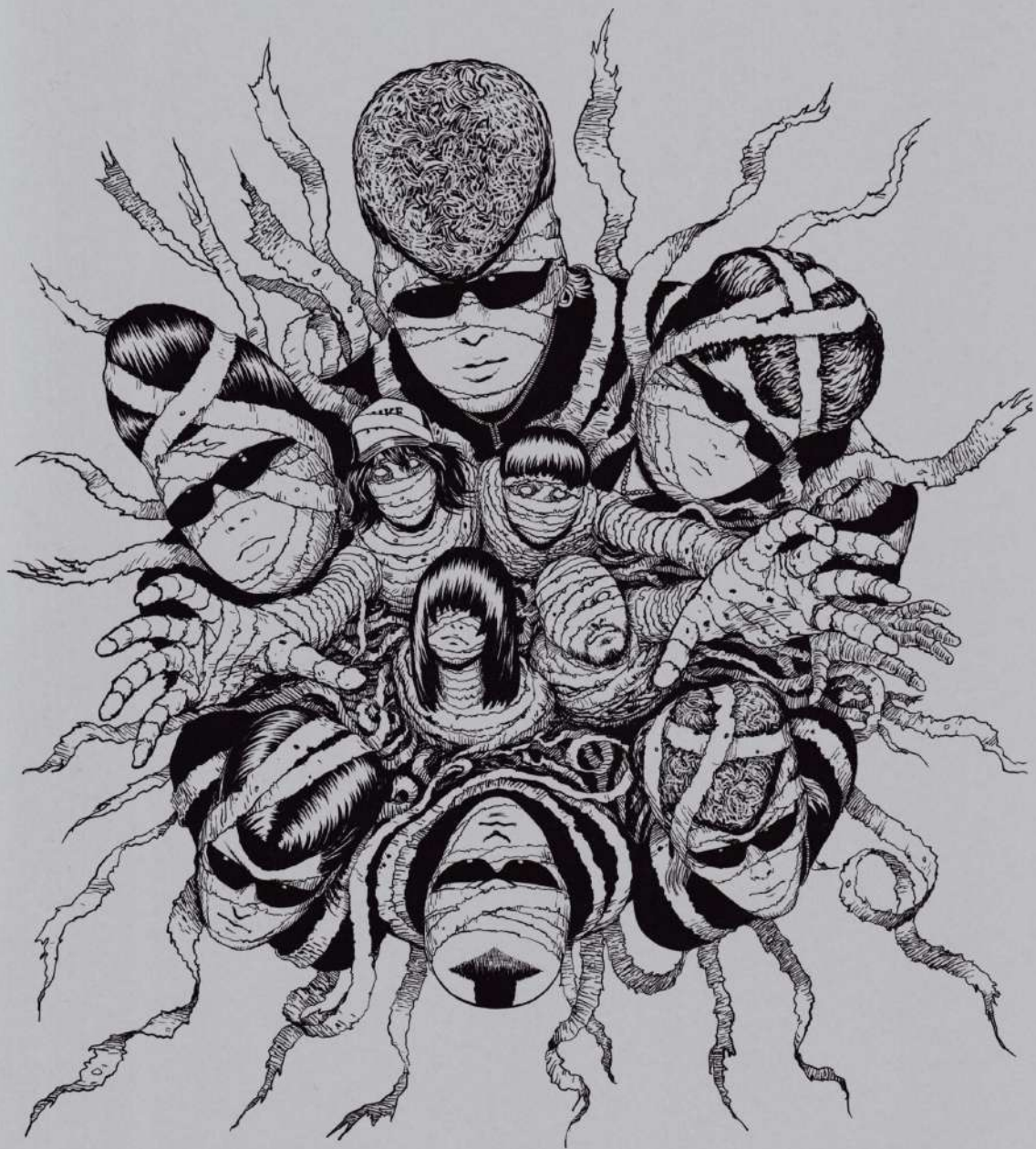








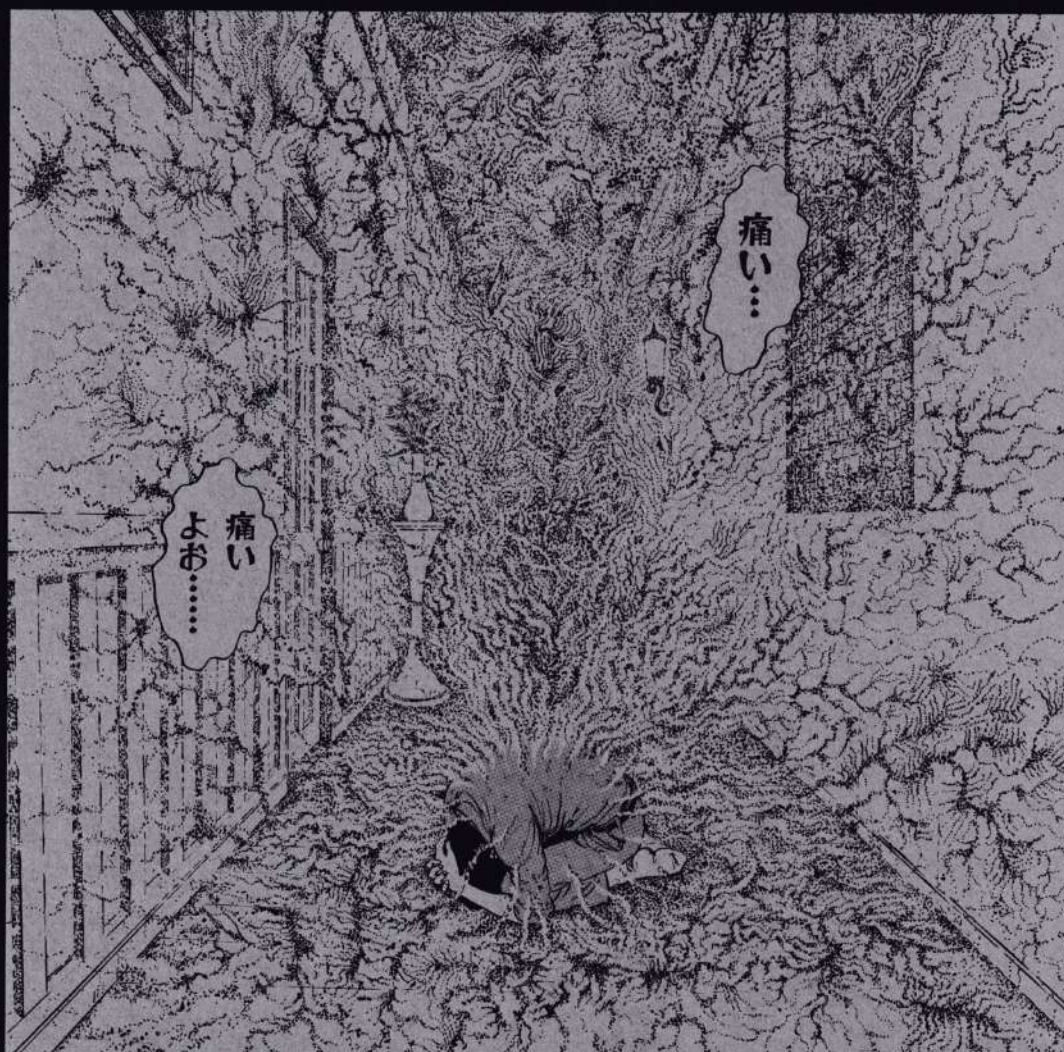












伊藤潤二インタビュー

ホラー漫画の技法

ひたむきに漫画に向き合ってきた30余年、数多のホラーの傑作が世に生まれた。いかにして、それらの恐怖の瞬間が創り出されたのか。その奇抜な着想から使用画材に至るまで、無二の「絵」を生み出す技法を聞いてみた。

――まず初めに、絵を描く時に心掛けていることはありますか？

伊藤 一枚絵を描く時も、できればコンセプトというか、アイデアが欲しいところです。漫画の扉絵や単行本のカバーなどは、すでに漫画のストーリーがあるので、それに沿ったものを書くわけですが、人物の配置とか、背景のイメージなど、描く意欲が湧くような構図なり、色調なりを考えます。漫画以外の独立した絵を描く場合は、なおさらアイデアを練らなければなりません。私は頭の中でイメージを完成させることができないほうです。実際にスケッチなどして、だんだん形ができていくタイプです。

――絵を描く時にお手本にしている、または影響を受けた人物はいますか？

伊藤 漫画で言えば、模図かずお先生の影響は私の体に

しみ込んでいて、無意識に現れてしまっています。意識的に真似をしたのは、大友克洋先生です。私の漫画を見ればわかることなので、それとは別の影響をお話ししますと、ひとつに、いわさきちひろの影響があります。水彩画の魅力もありますが、幼い女の子の顔がかわいくて、かわいい顔の描き方の最初のモデルとなりました。

漫画からは離れますが、中学生の頃に石川滋彦『日曜画家の水彩画入門』という本を買って、水彩画の魅力に気づかれました。おおらかな筆遣いながらも、太陽の温かい光を感じさせる絵で、私は水彩画は太陽光を再現することに意味がある、とさえ思いました。その流れで、チャールズ・リードの『水彩で花を描く』という本に夢中になりました。やはり太陽光と影（陰）を意識した色遣いで、ラフとも思えるような自由な筆さばきなのですが、そこそが水彩画の魅力を最大限に引き出していると感じました。紙の白さを生かした輝くような色彩と迷

いのないストローク。私には絶対に真似のできない才能でした。たとえ私に真似ができたとしても、ホラー漫画のカラーにはあまり役には立たなかつたと思いますが……。高校生になつてから、美術部で油絵を始めましたが、そのころ手本にしていたのは、モネ、コロ、レンブラントなどです。コロの「ナルニの橋」という風景画が特に印象に残っています。

ギーガーの画集に出会つたのは歯科技工士として働き出してからです。映画『エイリアン』のデザインを担当したことは知っていましたが、エアブラシの絵を本格的に知つたのはこの時です。地獄の闇のような風景が満載で、光輝く水彩画とは真逆の魅力に取り憑かれました。何時間でも眺めていられます。

私の絵がベクシンスキーの影響があるのでは？ という指摘を受けたことがあります。私がベクシンスキーを知つたのは、ずいぶん後になってからです。今では、

その魅力に取り憑かれています。

エドガー・アラン・ポーの小説の挿絵を多く描いた、ハリー・クラークのペン画もすごく、私が空白恐怖症となつて、画面をペンで埋め尽くさなくては、という強迫観念にとらわれているのは、この画家の影響です。

また「絵」という観点で好きなのは、漫画家だと山田章博先生の絵は好きですね。武瓶勉先生にも驚嘆しました。画家では、有名どころでは、ドガが好きです。踊り子のパステル画は惹きつけられます。先にも挙げた、ギーガー、ベクシンスキーも外せません。

——漫画の中でいわゆるクリーチャー、オリジナルの化け物を描かれることが多いですが、どういったアプローチから創造するのですか？

伊藤 私には基本的に、漫画のアイデアに沿った化け物しか作り出せません。例えば、舌がナメクジになったら、というアイデアから「なめくじ少女」を造形しましたし、気味の悪いファッションモデルというコンセプトから「淵さん」が生まれました。ただ、淵さんはサメからイメージしたのと、高校生のころに落書きから生まれた顔の長いキャラクターのイメージを持ってきたりしましたが。

「ご先祖様」はトーテムポールのイメージです。そういったアイデア、イメージが浮かんでから造形します。いきなり、何か化け物を考えようとしても、なかなか出てきません。そして、アイデアが出て、頭の中ではその姿は漠然としていることが多く、スケッチを繰り返して描くことにより具体的になります。

「屋根裏の長い髪」の髪の毛の長い生首は、柱からぶら下がっている絵がいきなりひらめきました。でもこれは厳密に言えばクリーチャーではないのかな……？

——今まで描いてきた化け物の中でお気に入りのキャラクターや絵はありますか？

伊藤 化け物という点では、「首吊り気球」、「淵さん」、「ご先祖様」などが気に入っています。光と影を意識して描いた物が多いですね。収録しているモノクロ画は作品の中から1枚を選んでいますが、一枚絵とは言っても、漫画としてのストーリーがあつてのもので、作品全体の一部としてとらえるべきものかもしれませんが、あえて一枚切り取って単体としてみると、また違った印象が生じるような気がします。見る人の想像が膨らんで、ストーリーを離れ、一枚絵がひとり歩きするのもおもしろいと思います。映画の予告編のほうが本編よりもおもしろいなんてこともあるわけです。漫画本編よりおもしろそうな一枚絵なんて言うのも描けたらそれもありですね。

また絵としては、「多身の舞」は展覧会用に描いた物ですが、とても気に入っています。短編「首のない彫刻」からのアイデアの流用ですが、ちょっと狂った感じがいいと思います。

ラヴクラフト「宇宙からの色」も展覧会用に描きましたが、「地球上に存在しない色」というコンセプトを「地球上に存在する色」で表現してしまいました。その図々しさが気に入っています。

氣志團とThe Mirazの絵も気に入っています。コラボイベントのTシャツ用に描いた物ですが、メンバーの顔を丹精込めて描きました。

『教室異形コレクション』の口絵も気に入っています。実はカバーよりも廊下に立たされた子供の幽霊の口絵のほうがよく描けたと思っています。

——続いて道具についてお聞かせします。カラーを描く時

に使用する画材と、選んだ理由とその一長一短などをお聞かせください。

伊藤 紙はほとんどケント紙です。凹凸のある水彩画用紙のほうが、発色がいいかもしれませんが、漫画のカラー用としては、私は滑らかなほうがいいです。昔、画材屋で「ケント紙のように滑らかな水彩画用紙はありませんか？」と店主に尋ねたら、「じゃあケント紙でいいじゃん」と言われてしまいました。画材は透明水彩絵の具、カラーインク、アクリル絵の具、まれに色鉛筆を使ったこともあります。

また、一般的に紙は水分を吸って波打ってしまうので、水張りをしなくてはならなかったり、下描きで消しゴムをかけすぎて傷めないようにしたり、など、いろいろな気を使いますね。ケントボードも昔よく使いました。分厚くて波打たないので水張りの必要がなく便利なのですが、裏から透かせないので下描きのトレースができないのと、印刷の際、印刷機のドラムに巻けないので普通の紙のほうがいいと編集さんに言われたこともあったりして、あまり使わなくなりました。

木材ボードで描く場合はホームセンターで売られているMDFボードを使っています。木材というより、紙を固めたような板ですが。画材としてふさわしいかどうかはわかりませんが、描きやすいです。

キャンパスは、麻の目があるので、漫画のカラー用には向いてなさそうです。普通に油絵としてなら、麻の目がいかにも油絵を描いている実感がありませんね。

デジタル画の利点は、なんといっても失敗したらやり直すのが簡単なところです。ただ、まだ私の技術が未熟ということもあるかもしれませんが、小綺麗でいかにもデジタルの絵という感じになってしまうので、アナログ

で描くに越したことはありません。アナログのカラーを描くのはやはり時間がかかって、水彩画は最低でも2日はかかります。油絵ならもっとかかりますね。

——モノクロ原稿についてはどうですか？

伊藤 モノクロの場合は、漫画なので主にペン画になります。アナログではケント紙に描きます。ケント紙もいろいろ試しましたが、私はミューズ KMK ケントの200gが性に合っていました。ちよつと厚めで、枚数が多くなるとかなりかさばりますが、表面が堅牢で、ペンの走りがいいです。漫画原稿用紙は基本枠が印刷されているので便利ですが、紙質的に私はちよつとダメでした。

アナログのメリットはなんといっても描いているという実感があることです。それとデジタルと違って紙という実体があることは、消えてなくなる不安がなくて心強いですね。ペンが紙に食い込んで引くかかるのが苦手でしたが、デジタルの液タブのツルツルで滑りやすくて制御が利かないことに苦心している今となっては、引っこかりも描きやすさの利点だったと思います。ただ、アナログのペン画は、ペン先に当たりはずれがあつて、同じ製品でも描き味にムラがあつたり、インクも一瓶使い切る前に描き味が悪くなつたりと、いろいろ苦労がありました。インクの粘度が増すと描きにくくなるので、薬局で精製水を買ってきて、薄めたりしました。そうすると描きやすくなるんです。それでもおろしたての描き味は戻りませんでしたが、それから室内の湿度にも影響されて、乾燥している時は線がかすれやすくなりますね。それに気づいたのはずつと後になってからでした。

それと紙で一番苦手なのが、微妙に波打っているのも、机から浮く部分があることです。浮いているところにペンを置くと、紙が沈んで線がゆがんでしまいます。湿気を多く含むと一層たわんで、浮きがひどくなります。指で押さえればいいだけの話ですが、手の油が紙に付くとインクをはじいてしまうので、直接紙に触りたくありません。手袋をするのも鬱陶しいです。それで、磁石の原理を使って紙を抑え込む道具を作ったりもしました。

デジタルのメリットはなんといっても、編集できること。拡大縮小、切り貼り、楕円も簡単に描ける。絵を反転させてデッサンの狂いを確認するのもショーカットキーのボタンひとつです。トーン貼りやベタ塗りの速さはアナログの比ではありません。

デメリットはパソコンや周辺機器のトラブルで、問題解決に時間がかかったり、うっかりミスやパソコンの不具合でたまに保存する前のデータが消えてしまつたりすること。それから、何より、アナログのような実体がないことが不安要因です。そして、先にも言ったように、ツルツルの画面でペンの制御が難しいこと。これは摩擦を大きくするシートを張っても、私の感覚では完全には解決できません。それから、液タブの精度がまだまだで、定規を当てて直線を引いた場合、ずれることが多いのが残念。定規で線が正確に引けたらいいのですが……。

——今回の画集の目玉である描き下ろしのカバー画はどういう発想から生まれたのでしょうか？ どの点に力を入れましたか？

伊藤 画集のカバーということで、なんとなくイメージとして、正面を向いた、人物が化物だ、と思いた。化物はいきなり造形できないので、ここは美人に

しておこうと。そこで、スケッチを何枚か描いて、徐々に形にしました。私は放射状の物が気持ち悪いなと思い、漫画でもよく描きます。蜘蛛やゲジゲジの足が放射状なので、それが気持ち悪いの原因かもしれせん。今回もスケッチの途中から「放射状」をテーマに決めました。

B3のKMKケントの紙いっぱい描いたので、かなり時間がかかりましたが、それにかかりきりにもなれなかったのも、妥協した部分も多々あります。それでもラフから5日くらいかかったような記憶です。

——デビューが少女漫画誌からということで女性キャラを多く描かれていますが、今後はこういう絵を描いていきたい、または挑戦したいことなどありますか？

伊藤 女性のほうが描きやすいというより、描いていて楽しいですね。美人画だけ描いて暮らしたらどんなに楽しいだろう、と思います。

今後挑戦したいことは？ という質問をよく受けるのですが、漫画に関しては目先の仕事をこなすのが精いっぱい、展望が今ひとつ見えません。むしろ、やりたいことは漫画以外のことです。美人画も楽しそうだし、太陽の光に満ちた水彩画も描いてみたい。彫刻もやりた。いし、幻想的な油絵も描きたい。私は、本当は画家になるのが夢だったんです。食べていけそうにないので諦めました。でも結局、趣味でやるのが一番いいんじゃないかと思えます。何かしら創っている時が一番幸せです。集中して寝食を忘れますね。買ったままになつていないディアゴスティーニの自動車や飛行機の模型も死ぬ前には完成させたいですね。

——ありがとうございます！

009



富江
(ザ・ホラー 1999年4月号
ピンナップ)

ケント紙・カラーインク。「富江」が映画化された頃の企画絵。酒巻一郎氏所有。

006



屋根裏の長い髪
(1989年12月/単行本カバー)

ケント紙・カラーインク。初の単行本のカバー画。背景の暗闇の濃淡がいい感じ! と思っていたら、できあがったカバーは背景が真っ黒に修正されていた! しかし、今見ると濃淡はそれほどよくもない。

富江

010



富江
(ネムキ1999年11月号/表紙)

ケント紙・水彩。「ネムキ」の表紙ということで、美しく描くことにした。しかし、こういう絵を描くのは得意ではない。

007



富江
(ハロウィン1995年10月号
表紙)

ケント紙・カラーインク。富江のカラーを描く時は、いつも髪の色に悩む。時には茶色に、時にはブルーに、これは気まぐれで緑にしてみました。手はなんとなく添えた。

004



地下室
(1990年1月/単行本カバー)

ケント紙・カラーインク。単行本として世に出た2冊目。富江の顔の影を青く塗ったら髪の手刺跡のようになってしまって、何とか目立たないように直した思い出がある。

011



富江(全)
(2000年2月/単行本カバー)

ケント紙・水彩。富江は目尻が吊り上がっているのが特徴だが、この富江もかなり吊り上がっている。髪の色はブルー。

008



小指
(ネムキ1999年3月号別冊
伊藤潤二WORLD/扉)

ケント紙・水彩。冷たく暗い洞窟に、富江の美しく妖しい裸体が浮かび上がった。ひとりだけ醜いのは、富江の小指から再生した「コユビちゃん」である。

005



屋敷
(1990年10月/単行本カバー)

ケント紙・カラーインク。単行本3冊目のカバー画。私自身はあまり気に入った絵ではないが、担当編集者の原田さんはいいとおっしゃってくれたような記憶がある。

INDEX

021



屋敷
(ハロウィン1990年6月号)

富江の化け物の特徴は巨大なミミズのような足。腹部に垂れる三つ編みは、ラヴクラフトの小説「ダンウィッチの怪」の中で怪物の姿を表現する「くねった縄」という比喻から連想したがちょっとチープだった。

018



富江replay
パーフェクト・ブック
(2000年2月
縦読みポスター)

ケント紙・水彩。当初、富江シリーズの合本のカバーとして描いたが、当時は女学生などが被害に遭う事件が社会問題となっていた頃。この絵もそれを連想させるという理由で、カバー画として使うことは控えた。

015



富江
(ネムキ2011年5月号/表紙)

ケント紙・水彩。「ネムキ」の表紙となると、いつもきれいに描かなきゃと思う。これは結構きれいに描けて気に入っている。

012



富江replay
(2000年2月/単行本カバー)

ケント紙・アクリル(水彩?)。飯野文彦先生による、映画『富江replay』のノベライズのカバー画。余談だが、映画の主演の山口紗弥加さんがとても感じのいい人だった。

022



画家
(ハロウィン1995年7月号)

「画家」は富江の性質を一番よく表した作品だと思う。富江が自分を世界で一番美しいと豪語するので、それに見合った美女に描かなければ、と頑張った。

019



写真
(ハロウィン1989年11月号)

「富江・写真」はそのあと「接吻」「屋敷」と続く連作の第1話だが、これは完全読み切りとしての掲載だった。にもかかわらず私は連作を想定して描いたので、冒頭のこのシーンが、「屋敷」につながっている。今思えば実に手前勝手な描き方をしていたものだ。

016



伊藤潤二自選傑作集
(2015年10月/単行本カバー)

フルデジタルの作画。自選傑作集に載った作品のキャラクターが首吊り気球の被害に遭っている。富江は悪運強くまだ吊られていない。

013



富江replay
(2000年2月/単行本口絵)

ケント紙・アクリル(水彩?)。映画『富江replay』のシーンからイメージした。

023



養女
(ハロウィン1995年10月号)

「養女」では富江がその魔性によって、ついに老人まで狂わせてしまう。私には比較的体裁の整ったストーリーになった。

020



写真
(ハロウィン1989年12月号)

富江は写真に撮ると化け物として写ってしまう。これは、その後その姿が現実になる伏線でもありと同時に、富江がメディアに出しまうと芸能界が黙っているはずもなく、話が広がりすぎて私の手に負えなくなるので、富江自身が写真に撮られるのを避ける理由を与えるためもあった。

017



伊藤潤二『コレクション』
(2018年5月
下巻DVDジャケット)

フルデジタル。アニメ『伊藤潤二『コレクション』』DVDジャケット用に描いた。私がよくやる手で、単行本の巻によって主調色を変えるということをやった。上巻は青、中巻は緑、下巻は赤と、主調色を変えた。DVD全3巻のトリを務めるのは富江。やはり富江が一番描いていて楽しい。

014



富江Again
(2001年3月/単行本カバー)

ケント紙・水彩。うーん、なんだかやっつけ仕事だなあ。富江の目の吊り上がりがマックスである。

034



うずまき
(1999年11月/3巻扉)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙に主線をコピー・水彩。
「うずまき」13話扉。主線を入れた
原稿を別のケント紙にコピー
し、そこに彩色している。これも
コミックスにする際にモノクロ
だった扉絵を彩色した。

031



うずまき
(1999年4月/2巻カバー)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩(カラーインク?)。
第2巻は黄色。これは一度描き損
じていて、失敗したものが残っ
ている。

う
ず
ま
き

024



もろみ
(ネムキ2000年1月号)

ついに酒になってしまった富江。
私も呑んでみたい。きつと悲しい
する。

035



うずまき
(1999年11月/3巻カバー)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩。本巻、最終巻は青。

032



うずまき
(1999年4月/2巻扉)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙に主線をコピー・水彩。
「うずまき」7話扉絵。コミックス
にする時にモノクロの扉絵に彩色
をした。それにしてもビックリ箱
が古典的ビエロである。古典的な
ものが好きだ。

028-029



うずまき
(週刊ビッグコミックスピリッツ
1998年7号/扉)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・カラーインク(一部ア
クリル?)。「うずまき」第1話の
巻頭カラー。メジャー誌での初連
載ということで、力が入っている
ような気もする。

025



もろみ
(ネムキ2000年1月号)

富江をミンチにして酒にしてし
まうという発想はどうしてそう
なったのか、よく思い出せない。
とりあえず見せ場が必要なので、
富江たちには醸造タンクから飛
び出してもらった。

036



うずまき
呪いシミュレーション
(2000年3月
ゲームソフトジャケット)
©伊藤潤二/小学館

水彩・ケント紙。ワンダースワ
ンのゲームになった際のパッケ
ージ画2点のうちの1枚。横手市増
田まんが美術館収蔵。

033



うずまき女
(ゲーム批評1999年3月号
表紙)

ケント紙・水彩。「うずまき」に
ちなんで表紙絵。半分ギャグ。酒巻一
郎氏所有。

030



うずまき
(1998年1月/1巻カバー)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩(カラーイン
ク?)。例によって、第1巻は青が
基調。

026



トップモデル
(ネムキ2000年9月号)

富江の群像となると、そのポーズ
にも一苦労。これを映像化する場
合があるとしたら、富江たちが怪
しげなコンテンポラリーダンス
を踊っていたらおもしろいかも
しれない。

OTHER WORKS

046-047



うずまき
(週刊ビッグコミックスピリッツ
1999年39号)
©伊藤潤二/小学館

私は漫画「うずまき」を通して、古代より存在する渦巻き模様の謎を解明するはずであった。しかし最終話に至っても結局謎は解けず、ラヴクラフト風の遺跡を描いてお茶を濁したのだった。

043



うずまき
(週刊ビッグコミックスピリッツ
1998年26号)
©伊藤潤二/小学館

髪が、春の山菜・ゼンマイのようになっちゃった。描く前はもう少しサマになると思っていたのだが……。これはホラーにおける渦巻き模様の限界を示している。

037



うずまき
(2000年3月/単行本カバー)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩。「うずまき」全3巻をまとめたワイド版用に描いた。

052



中古レコード
(ハロウィン1990年12月号
扉)

ケント紙・カラーインク。ジャズ喫茶の雰囲気を描いてみたかった。この絵はクラリネットを演奏する親友にプレゼントした。

048-049



うずまき
(週刊ビッグコミックスピリッツ
1998年7号)
©伊藤潤二/小学館

「うずまき」の中でも一、二を争うハイライトシーン。これは皆さんご存知のように、「守口潰け」からヒントを得た。

044



うずまき
(週刊ビッグコミックスピリッツ
1998年39号)
©伊藤潤二/小学館

悲惨な絵である。

038-039



うずまき
(2000年3月/単行本カバー)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩。ワイド版の裏表紙に描いたヒトマイマイ。配置はデザイナーさんにお任せした。

053



脱走兵のいる家
(1991年3月/単行本カバー)

ケント紙・カラーインク、一部アクリル。頭巾をかぶったどくろの描写に力を入れたことを覚えてる。

050



うずまき
(週刊ビッグコミックスピリッツ
1998年7号)
©伊藤潤二/小学館

渦巻きを収集する親父。いろんな渦巻きグッズを描くのに一苦労した。

045



うずまき
(週刊ビッグコミックスピリッツ
1998年12号)
©伊藤潤二/小学館

「うずまき」の中でも一、二を争うハイライトシーン。ブラックホールの擬人化といつていい。

040-041



うずまき
(2010年9月/単行本カバー)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩。2度目のワイド版。久しぶりに桐絵と秀一を描いた。巻末には作家の佐藤優先生に過分なる解説を頂戴した。

063



墓標の町
(1994年11月/単行本カバー)

ケント紙・カラーインク。仕上げに、全体に薄いブルーを被せた。油絵におけるグラッシという技法の真似事。耐水性のカラーインクだからできた技法。画面全体の色がちぐはぐな時にこの技法を使うと、色の調子が整って、一種の輝きも出る。

060



伊藤潤二恐怖コレクション
首吊り気球
オリジナルサウンドトラック
(2000年9月/CDジャケット)

ケント紙・水彩。短編がドラマ化された際のサントラCD用に描いた小品。酒巻一郎氏所有。

057



サイレンの村
(1993年5月/単行本カバー)

ケント紙、アクリル画と記憶している。この螺旋の塔の形は風呂で頭を洗っている時に思いついた。巨大なヘビかドラゴンのような悪魔が、この塔に巻きつき、螺旋に沿って上に登っていく絵になるはずだった。しかし、できあがった漫画にそのシーンはない。なかなかうまくいかないものである。

054



首のない彫刻
(1991年10月/単行本カバー)

ケント紙。カラーインク。怖い絵を目指した。色合いがちょっと淡すぎた。

064



棺桶
(1995年9月/単行本カバー)

ケント紙・カラーインク。カラーインクは彩度の高い色彩が魅力だ。ただ、画材としては退色しやすいということで、あまり使わなくなりましたが、今のところ原画はさほど退色していないようだ。

061



うめく排水管
(1994年3月/単行本カバー)

ケント紙・アクリル。色の調和がまったく取れていない。アクリルは自分に向いていないと思った。

058



首吊り気球
(ハロウィン1994年1月号/扉)

ケント紙・水彩。そういえば、これとは別に描いた「首吊り気球」の単行本のカバー画が、何かの展示に貸した後どこかに行っちゃい、未だ行方不明である。

055



路地裏
(1992年12月/単行本カバー)

ケント紙、カラーインクと確か色鉛筆も使った。女性の顔が黄緑色である。うーん、ダメだこりゃ。

065-067



双一の勝手な呪い
(ハロウィン1995年2月号/扉)

ケント紙・アクリル。アクリル絵の具は退色しにくいということで当時よく使ったが、何しろムラになりやすく苦手な画材だった。樹脂っぽい仕上がりも不満で、次第に使わなくなってしまった。

062



フランケンシュタイン
(1994年12月/単行本カバー)

ケント紙・カラーインク。スプラッターリングで絵の具の飛沫を散らした。水彩画でよく使われる技法だ。スプラッターリングは平坦な絵に、よいアクセントを生む。

059



草原の首吊り気球
(2008年5月/展覧会)

板・油彩。ヴァニラ画廊で行われた4人展のために描き下ろした。昔のジュヴナイルSFのカバー画っぽい雰囲気を狙った。飯田浩正氏所有。

056



アイスクリームバス
(眠れぬ夜の奇妙な話
1993年VOL.13/扉)

ケント紙・アクリル。この絵はコテコテのアクリル画である。こってりアイスクリーム。



伊藤潤二恐怖コレクション
押切
オリジナルサウンドトラック
(2000年8月/CDジャケット)

ケント紙・水彩(カラーインク?)。短編がドラマ化された際のサウンドトラックCD用に描いた小品。酒巻一郎氏所有。



怪奇カンヅメ
(1996年11月/単行本カバー)

ケント紙・水彩。『怪奇カンヅメ』という題名の単行本のカバーに合わせて描いた。何ともまとまりのない絵となった。



死びとの恋わずらい
(ネムキ1996年5月号/扉)

ケント紙に水彩と色鉛筆。霧の描写は難しい。



闇の声
(2003年9月/単行本カバー)

板・油彩。双一の息子「敏三」としぞうではなく、ピンゾーと読む。子供のころ友人U君のお父さんから聞いた怖い話の中に、暗闇で人肉をかじる子供の話があり、そこからインスパイアされたキャラクター。



伊藤潤二『コレクション』
(2018年4月
中巻DVDジャケット)

フルデジタル。DVD中巻に収録されるキャラクターたちを「道のない街」の世界に、迷い込ませてみた。押切のセーターの色はちょっと違和感がある。



トンネル奇譚
(1997年11月/単行本カバー)

ケント紙・アクリル。アクリルの難しさを痛感した絵。アクリルは自分には向いていないと思った。



死びとの恋わずらい
(1997年5月/単行本カバー)

ケント紙・アクリル。屏の色がちょっとはつきりすぎて、霧の描写としては失敗だったかな。



伊藤潤二自選傑作集 奎
(2018年3月/単行本カバー)

フルデジタル。とにかく他の仕事の合間に描いて、時間がなかった。苦し紛れの作品。



ギョ
(週刊ビッグコミックスピリッツ
2001年50号/扉)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩。「ギョ」の第1話巻頭カラー。「ギョ」は下品な話になることがわかってはいたが、描かずにはいられなかった。この見開きも、一度描き損じている。透明水彩は描き直しが難しく、ダメだと思ったら最初から描き直す。2度目は反省点を生かすので、だいたいうまくいく。



あばら骨の女
(別冊花とゆめ
1999年9月号/扉)

ケント紙・水彩(カラーインク?)。生まれついた体の美しさには、あばら骨の形は重要な役割を果たすと思う。それは持って生まれたあばら骨の美しさであって、美容のためにあばら骨を1、2本取ったところで、美しくなるとは思えない。



死びとの恋わずらい(完全版)
(2001年3月/単行本カバー)

ケント紙、透明水彩の味を出そうとした。ウェット・イン・ウェットのボカシの技法も取り入れた完全版のカバー。担当編集者の原田さんもこれを気に入っていたようだ。



伊藤潤二『コレクション』
(2018年3月
上巻DVDジャケット)

フルデジタル。上巻のこの双一の目に縦線が入っていないが、これは決して描き忘れたわけではない。なんとなく描くのをやめたのだ。

092



ブラックバダックス
(増刊ビッグコミックスピリッツ
Casual 2007年16号/扉)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩。第1話カラー扉絵。
肌色を作るには、黄色、赤、茶色の
他に、ローズマダーを混ぜるとい
いと、画家の安野光雅先生がテレ
ビでおっしゃっていたので真似
をした。確かにいい肌色になる。

089



実話が怖い!
怪談新耳袋 家
(2007年7月/表紙)
株式会社メディアファクトリー

ケント紙・水彩。コミック版の新
耳袋の表紙。新耳袋というタイト
ルからイメージして描いた。

085



教室 異形コレクション
(2003年9月/文庫本口絵)

板・油彩。同じく光文社文庫の口
絵。油絵は自分に合っているかも
しれない。まだまだ下手だけど気
に入っている。

082



ギョ
(2002年4、7月
1、2巻カバー)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩。これは原画なの
で、ロゴはないが、デザイナーの
星野ゆきお氏による「ギョ」のロ
ゴは画期的で、当時仰天した。第
2巻目はエグイ絵を描いてしまい、
単行本売り上げに悪影響を与え
た可能性がある。これを反省した
私は、以後、カバー画にグロテス
クな絵は描かないように心掛け
た……はずだが。

093



ブラックバダックス
(2009年4月/単行本カバー)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩。わりときれいに
描けたので気に入っている。私は
透明水彩の魅力に取り憑かれた
ひとりだが、あまり得意ではない。

090



実話が怖い!
怪談新耳袋 さびしうな犬
(2008年7月/表紙)
株式会社メディアファクトリー

ケント紙・カラーインク。コミッ
ク版の新耳袋の表紙を依頼されて
描いた。怯えるとともに、狂気をは
らんだ表情にした。

086-087



地獄星レミナ
(増刊ビッグコミックスピリッツ
Casual 2004年1号/扉)
©伊藤潤二/小学館

ケント紙・水彩。「地獄星レミナ」
第1話の巻頭カラー。担当編集者
の中熊さんは、レミナの拷問シー
ンにエグイものを期待したよう
だが、結局平凡な拷問シーンしか
描けなかった。期待に応えられず、
恨めたる思いがあった。

083



闇の声
(2003年9月/単行本カバー)

板・油彩。初めて単行本のカバー
画を油絵で描いた。なんとなく油
絵を描いてみたかった。

094-095



伝説探偵団
(未発売)

板・油彩。6枚依頼のあったドラ
マCD『伝説探偵団』用に描いた6
枚目の絵。しかし、6枚目は発売さ
れず、幻の絵となった。この絵、昔
読んだ『SFショートショート傑
作集』に収録されていた幽霊バス
の話からインスパイアされたも
の。酒巻一郎氏所有。

091



新・闇の声 遺談
(2006年11月/単行本カバー)

キャンバスボード・油彩。本当は
潰れた死体をもっと克明に描くつ
もりだったが、締切りに間に合わ
ず、力尽きて描くのを諦めた。

088



地獄星レミナ
(2005年10月/単行本カバー)
©伊藤潤二/小学館

板・油彩。この頃は単行本のカ
バーを油絵で描いていた。私は油
絵が向いているような気がする。
下手だけど、もっと土連して漫画
家を引退したら油絵を描いて過
ごしたい。

084



教室 異形コレクション
(2003年9月/文庫本カバー)

板・油彩。光文社文庫のカバー画。
気に入っている。

119



死びとの恋わずらい
(ネムキ1996年7月号)

当たり前だが何背に苦勞した。一応、刺青はうしろ側もデザインしてある。

116



寒気
(ハロウィン1991年11月号)

この頃の絵は黒が締まっていた。

113



恐怖の重層
(Nemuki + 2017年3月号/扉)

ケント紙、線画はアナログで描き、それをスキャンしてデータで仕上げた。この頃はすでにフルデジタルで漫画を描いていたが、「浦沢直樹の漫勉」出演のために描く作品ということで、あえて主線はアナログで描いた(デジタルで描いてプリントアウトした下描きをトレースする形)。やはりアナログ作業のほうがテレビでの見栄えがいい。

109



溶解教室
(もっと! 2013年vol.2/扉)
©伊藤潤二(秋田書店) 2013

ケント紙・水彩。ちずみは、「双一のようなキャラクター」という編集さんのリクエストに応じて作ったキャラクター。今思うと、もう少しかわいい顔にしておけばよかったと後悔している。

120-121



死びとの恋わずらい
(ネムキ1996年11月号)

苦勞したシーン。今だったらたぶん描けない。

117



隣の窓
(眠れぬ夜の奇妙な話
1995年VOL.23)

沼毛さんは潤さんの焼き直しの感がある分、不利な存在である。しかし、つけまつげがズレているので、逆転勝利だ。

114



夢魔の紀行
(Nemuki + 2018年9月号
表紙)

フルデジタル。『Nemuki+』の表紙の絵。新連載の主人公・白夜京子は黄金の髪を持ち主。しかし、その中に漆黒の髪も少し混ざっている。そんな彼女をカラーで描いたら、ちょっとケバいお姉さんの絵になってしまった。

110-111



溶解教室
(2015年1月/単行本カバー)
©伊藤潤二(秋田書店) 2015

ケント紙・水彩。単行本「溶解教室」カバー画。これはオリジナルの絵。カバーになった時は、デザイナーの川名潤氏により、黒板にチョークのロゴの文字などが加えられた。

122



長い夢
(ネムキ1997年1月号)

未来人のステレオタイプにホラーな味つけを施した。永遠の夢を見るホラーな未来人。

118



ご先祖様
(眠れぬ夜の奇妙な話
1996年VOL.29)

連なった頭のねじれ具合、配置に苦心した。この絵を描いている頃に母方の伯母が亡くなった。「ご先祖様」を読むたびに伯母のことを思い出す。

115



蠅
(眠れぬ夜の奇妙な話
1991年VOL.3)

顕微鏡で見た蠅の姿を巨大化させた。この前後のシーンを読んだ担当編集者の原田さんが「久々に堪能しました」と言ってくれたことを今もうれしく思い出す。

112



白雪姫
(ホラーアンソロジー
comic 死角 2016年9月
単行本カバー)
©伊藤潤二/ぶんか社

フルデジタル。読み切り作品「白雪姫」を収録したアンソロジーのカバー画。赤いドレスのバージョンと、この水色のバージョンを描いて、水色が採用された。

133



右上から ⑥屋敷 ⑦屋敷 ⑧
なめくじ少女 ⑨吸血放射状女
(酒巻一郎氏所有) ⑩肉色の怪

130



氣志團 PRESENTS 極東
ロックンロール・ハイスクール
氣志團 vs The Mirraz
(2011年11月/グッズ)

「極東ロックンロール・ハイスクール」コラボのTシャツのために描いた。氣志團さんとThe Mirrazさんとのコラボというわけで、ホラな私に白羽の矢が立ったのだろうか……。当然だがテーマはミイラである。この絵はとても気に入っている。

127



闇の絶唱
(ネムキ2006年9月号)

苦し紛れの絵である。

123



地獄の人形葬
(コミック・ゴン! 1998年2号)

わが子の人形化を放置するのは非常に危険である。

134



幻痛屋敷
(アワーズ・ガール2000年1号)

「痛み」を視覚化したつもりだが、うまくいったかどうかかわからない。

131



右上から ①中古レコード ②煙草会 ③脳(作品では「首のない教室」に改題) ④毛虫(作品では「ご先祖様」に改題) ⑤怪奇ひきずり兄弟(酒巻一郎氏所有) ⑥少年 ⑦死びとの悲わずらい・白服の美少年 ⑧蔵書幻影 すべて予告カット。

128



sukeyiyo 二〇一六年公演
「裸体と道具、泥芝居に
讃歌の詩」-漆黒の儀-
(2016年7月/グッズ)

フルデジタル。sukeyiyoの京さんには不思議なカリスマ性があった。どれだけ再現できたのだろうか?

124・125



地獄星レミナ
(増刊ビッグコミックスピリッツ
Casual 2004年5号)
©伊藤潤二/小学館

「地獄星レミナ」で空飛ぶシーンを描いたのは、スタジオジブリでのアニメ化を目論んでいた。だがスタジオジブリからオファーはなかった。

132



右上から ①ファッションモデル
②少年 ③棺桶 ④少年 ⑤ギョ
©伊藤潤二/小学館

129



京個展
〜子宮で視る脳排洩〜
(2018年5月/グッズ)

フルデジタル。京さんの宣材写真をお借りして丹精込めて描いた。

126



潰談
(ネムキ2006年5月号)

この叩き潰された人間の死骸は、例えと道路で車に轢かれたカエルがべちゃんこになって、干からびて雨に濡れて、その後再び干からびて、ペラペラに風化していく途中の感じを出したかった。

※初出の表記について
単行本は発行年月、雑誌は号数、CDなどは発売月を記載しました。



あとがき

漫画家生活が30年を超えて、その記念のひとつとして画集のお話をいただいた時、私のカラー画で画集なんて大丈夫かな? と思いました。私は漫画のカバー画も含めて、漫画に色を塗るのがあまり得意ではありません。毎回描き終える時には、理想に程遠い仕上がりに落胆し、満足したことはほとんどないので、画集を出すに値するのだろうか、甚だ自信がないところであります。画集のリストを今改めて見ても、反省点が多いです。しかし、中には気に入った絵もあったりして、それぞれの絵を見ながら、当時の思い出がよみがえったりしました。

漫画の他に、注文を受けて、イラスト、絵画として描いた作品もあります。これは彩色も含めて、本当に楽しく描いた物ばかりです。画家に憧れる私ですが、画家としてではなく、漫画家として全力を尽くす傍らで、楽しんでこれらの絵を描けることが幸せなことだと感じます。そんな楽しみが味わえるのも、読者の皆様の応援があつてこそです。この画集を買ってくださった皆様にも、この中から気に入った絵を見つけていただけたらうれいす。今後ともよろしく願ひします。

さて、この画集を出すにあたって、絵を探す必要も出てきました。過去に展覧会で販売して、現在は手元ない絵もあります。それについては絵を販売していただいたヴァニラ

画廊様とスパンアートギャラリー様、それから原画をお貸ししている横手市増田まんが美術館様のご協力と、現在絵を大切に所有してくださっている方々のご厚意も得て、画集を発売できる運びとなりました。中には私の壊れたパソコンと共にデータが消えた絵も含まれており、喜びもひとしおで、ご協力くださった皆様には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

そのほか、イラストの掲載にあたっては、有限会社サンクレイド様、株式会社ディアステージ様、株式会社トイズファクトリー様、株式会社デコレーションズ様、株式会社トッブ・マーシャル様、そのほか、多くの皆様のご協力をいただきました。楽しいお仕事をさせていただいたことにも感謝でいっぱいです。

そして今回、この画集では出版社の垣根を超えて絵を選ばせていただきました。小学館様、秋田書店様、メディアファクトリー様、学研様、講談社様、ぶんか社様には快く掲載をご承諾いただき、ありがとうございます。

そして、デザイナーの名和田さんには素敵な装丁をしていただきました。記念の画集、大切にいたします。

そして最後になりますが、朝日新聞出版の原真紀子さんには、画集の企画から、絵の探索、その他いろいろと奔走していただき本当にお世話になりました。心から感謝申し上げます。

2019年2月3日 伊藤潤二

伊藤潤二画集

異形世界

2019年3月30日 第1刷発行

著者 ————— 伊藤潤二

発行者 ————— 須田 剛

発行所 ————— 朝日新聞出版

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2
電話 03-5541-8917(編集)
電話 03-5540-7793(販売)

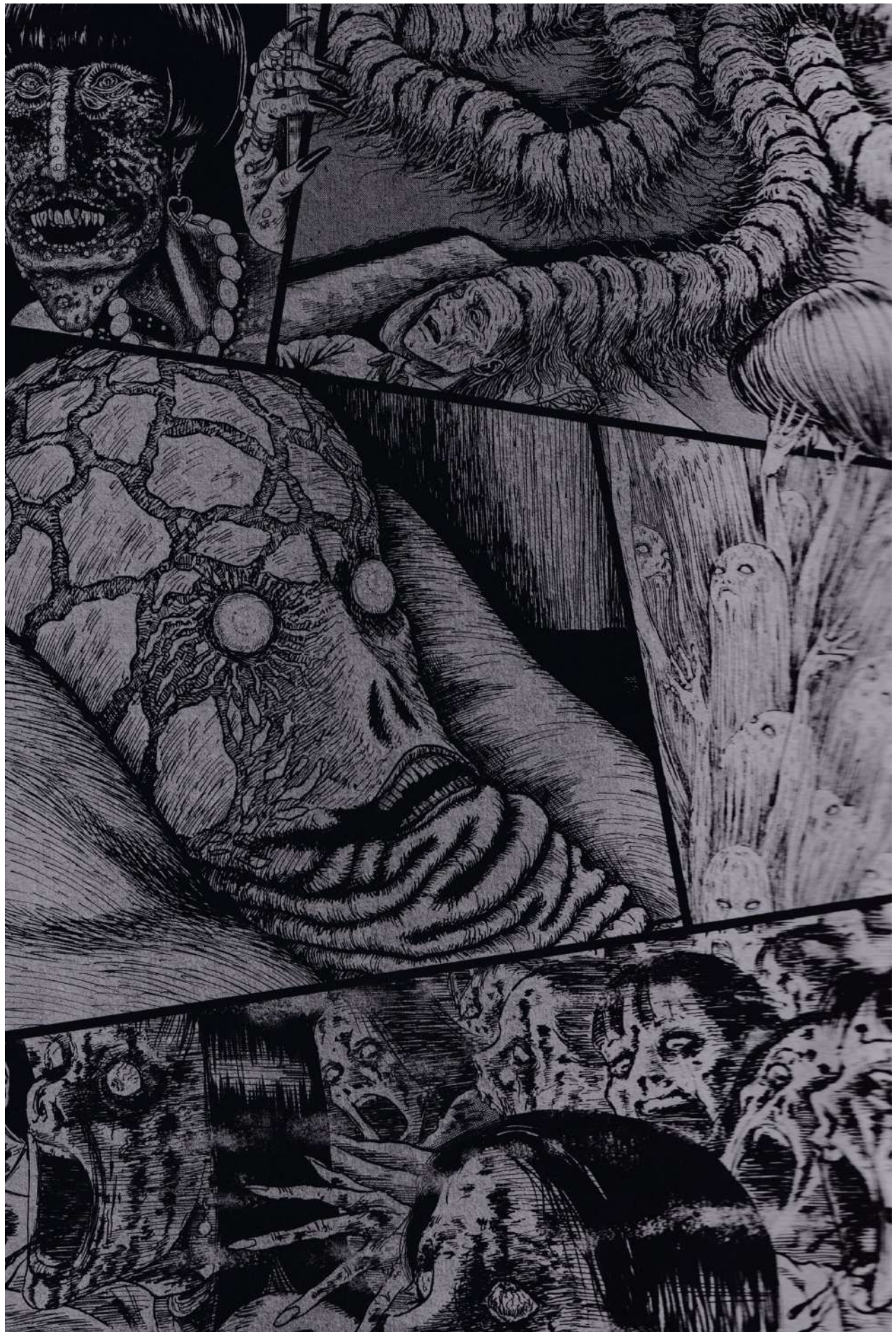
ブックデザイン ————— 名和田耕平デザイン事務所
(名和田耕平+小原果穂+三代紅葉+山地楓子)

印刷 ————— 大日本印刷株式会社

©2019 Junji Ito
Published in Japan by Asahi Shimbun Publications Inc.

定価はカバーに表示してあります。
落丁・乱丁の場合は弊社業務部(03-5540-7800)へご連絡ください。送料弊社負担にてお取り替えます。

ISBN978-4-02-214270-2







VORTEX PROJECT

PARA RECOMENDACIONES, RESEÑAS Y DESCARGAS
VISITA MI PÁGINA WWW.PSYCHO-PARADOX.BLOGSPOT



TAMBIEN ME ENCUENTRAS EN:



/VORTEXCLADESCANDOR

